

テ歩キトリト云フモ然モ登校ニハ全然必要ナク且廉紙ニハ容易ニ浸透スヘク臭氣ヲ發散スル石油ヲサイダー壘ニ充滿シ登校ノ途次公然之ヲ持テ歩カカキハ常識上之ヲ思考シ得ズ殊ニ被告ハ登校ノ途次其ノ友人ニ誘ヒタル事實アリ

其ノ他ハ單ニ證據ヲ志ニ爲シタルモノナリコト其ノ記載自體ニ徴シ極メテ明瞭ナリ被告ハ對シ昭和八年一月二十八日附錄取書ノ記載ヲ見ルニ被告ノ供述トシテ「父サンカストニアアツテ居リマシタカ火事ハ何處タ」ト云ヒマシ

書ノ記載ハ之ヲ被告ニ讀ミ聞ケタルヤ否ヤ結局被告ハ於テ其ノ記載ノ供述ヲ爲シタルヤ否ヤ疑フニ充分ノ理由アルモノト信ス

訴訟ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢事院廣政ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

元ヨリナラテ前同理由ニ依リ被告二人ニ對シ豫審裁判ノ第二回豫審訊問調書記載ノ被告ノ供述ハ之レ亦其ノ虚實ヲ疑フニ充分ノ理由アルモノト思フ

被告ノ供述ニ對シ被告ノ供述ハ之レ亦其ノ虚實ヲ疑フニ充分ノ理由アルモノト思フ

被告ノ供述ニ對シ被告ノ供述ハ之レ亦其ノ虚實ヲ疑フニ充分ノ理由アルモノト思フ

被告ノ供述ニ對シ被告ノ供述ハ之レ亦其ノ虚實ヲ疑フニ充分ノ理由アルモノト思フ







刑事判例

▲年少中學生ノ窃盜ト犯罪▲選舉運動依頼ノ爲ノ個々面接

檢査セラルルヤ自ら進テ書籍ノ持出シ等凡テノ行爲ヲ告白シ爾來未決勾留百數十日ニ及ヒ深ク自己從來ノ行動ノ誤リタルコトヲ覺リ改悔ノ情顯著ナルモノアリ此ノ機會ニ指導宜シキヲ得ルニ於テハ必スヤ改過遷善ノ效果ヲ見ルニ至ルヘシ之ニ反シ此ノ上實刑ヲ科スルニ至ラハ却テ單純未熟ナルコトノ種少年ノ思想ヲ惡化シ其ノ將來ヲ誤ルノ虞レナシトセス原審ハ宜シクコレ等ノ事情ヲ綜合斟酌シ被告ニ對シ刑ノ執行ヲ猶豫スヘキヲ至當トセシニ拘ラス事茲ニ出テサリシハ刑ノ量定著シク重キニ過キルト認ムルヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ破毀ヲ免レスト云フニ在リ

【決定理由】依テ記録ヲ精査スルニ原審ノ被告人ニ對スル刑ノ量定著シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルコトヲ認ム

依テ爾餘ノ論旨ニ對シテハ説明ヲ須ヒス刑事訴訟法第四百三十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和九年五月二十五日  
大審院第四刑事部、裁判長伊藤村木太郎  
判事 中尾 芳助 判事 遠藤 誠  
判事 沼 義雄 判事 岸 達也

昭和九年(九)第四一五號  
判決  
本籍 鹿兒島縣大島郡龍郷村瀨留一  
番地  
住居 同縣同郡名瀨町金久字松里平  
林子方  
鹿兒島縣立大島中學校學生  
松岡 央  
(大正六年三月二十七日生)

右窃盜被告事件ニ付昭和九年三月五日鹿兒島地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シ當院ハ同年五月二十五日事實ヲ審理ヲ爲スヘキ旨ノ決定ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ヲ破毀ス  
被告人ヲ懲役一年ニ處ス  
但シ右裁判確定ノ日ヨリ四年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス

【理由】 被告人上告趣意書中量刑ニ關スル論旨及辯護人谷村唯一郎、永田國光上告趣意書第二點ノ論旨理由アルコトハ前掲當院ノ決定ニ於テ説明スル如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ基キ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス仍テ審按スルニ

被告人ハ昭和七年十二月頃ヨリ同八年十二月二十四日迄ノ間ニ鹿兒島縣大島郡名瀨町伊津部所在鹿兒島縣立大島中學校内ニ於テ同校所有ノ步兵銃二挺狹窄實包五百六十發銃劍負革彈藥盒劍革革革洗矢平而幾何學外二十五點ノ書籍硝石一瓶及分光器一箇外一點ヲ意思繼續シテ五回ニ窃取シタルモノナリ

右ノ事實中意思繼續ノ點ヲ除ク爾餘ノ事實ハ被告人ノ當公庭ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ依リ之ヲ認メ意思繼續ノ點ハ被告人カ短期間内ニ同種ノ行爲ヲ反覆果行シタル事跡ニ依リ之ヲ認ム

スルヲ相當ト認ム同法第二十五條ニ則リ裁判確定ハ日ヨリ四年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス  
仍テ主文ノ如ク判決ス  
檢察官松坂政廣  
昭和九年七月三日  
大審院第四刑事部、裁判長伊藤村木太郎  
判事 中尾 芳助 判事 遠藤 誠  
判事 沼 義雄 判事 岸 達也

●選舉運動依頼ノ爲ノ個々面接  
面接

投票ヲ得ルハ目的ニ出テス單ニ選舉人ニ對シ選舉運動ヲ依リシタルトキハ衆議院議員選舉法第九十八條第二項ニ所謂個々面接ニ該當セザルモノトス

本籍並住居 京都府乙訓郡向日町大字森本小字春日井二十番地  
農業 清水 竹次郎  
(明治十八年二月二十日生)

【主文】 被告人竹次郎ノ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
原判決中被告人留吉ニ關スル部分ヲ破毀ス  
被告人留吉ヲ罰金二十圓ニ處ス  
右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シテ勞務場ニ留置ス

被告人留吉ヨリ金八十錢ヲ追徴ス  
被告人留吉カ昭和八年六月二十五日京都府乙訓郡向日町大字森本小字春日井二十番地清水竹次郎方ニ於テ右竹次郎ニ投票ヲ得シムルノ目的ヲ以テ渡邊庄之助外數名ノ選舉人ニ對シ右候補者ノ爲宜シク御盡力ヲ願フ旨申向ケテ投票ヲ爲シタリトノ公訴事實ニ付テハ被告人留吉ハ無罪

【理由】 各被告人辯護人塚田正三上告趣意書第一點原判決(第二審)ニ於テハ被告竹次郎カ昭和八年五月二十七日同年六月二十五日同年七月一日ノ三回井上留吉渡邊庄之助、山本彌三郎、森拾吉、安田治三郎外數名ノ選舉人ニ對シ投票又ハ選舉運動ヲ依頼スル趣旨ノ下ニ之カ報酬トシテ酒食ノ饗應ヲ爲シ被告留吉ハ右情ヲ知リナカラ之カ饗應ヲ受ケタル事實ヲ認定シ之カ證據トシテ……被告人竹次郎カ判示日時場所ニ於テ判示選舉人ニ判示獎勵ヲ爲シ被告人留吉ニ於テ竹次郎ヨリ判示日時場所ニ於テ判示獎勵ヲ受ケタル點ハ……各被告人ノ關係部分ニ付判示同旨ノ當公庭ニ於ケル供述ニ依リ之ヲ認メ……ト説示シタリ仍テ原審公判調書(第二審)ヲ査閱スルニ右井上、渡邊其ノ他右饗應ヲ受ケタル者カ選舉人ナリト供述シタル記載ナシ而シテ單ニ同年會ノ會員ヲ招キ饗應シタル旨ノ記載アルモノモ右會員カ選舉權者ナリヤ否ヤニ付何等ノ供述記載ナシ從テ原判決ハ虛無ノ證據ニ基キ事實ヲ認定シタルカ否ラサレハ證據ニ基カスシテ事實ヲ認定シタル不法

刑事判例

▲選舉運動依頼ノ爲ノ個々面接

アルモノトス假ニ衆議院議員選舉法第一百二十二條第一號ニハ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢物件ヲ供與シ又ハ饗應ヲ爲ス者ヲ處罰スル旨規定シアルモノナレハ饗應ヲ受ケタル者カ選舉權者ニアラストスルモ運動者トシテ饗應ヲ受ケタル事實ヲ認メ得ル以上前掲ノ法律違反ハ判決ニ影響ヲ及ボササルモノナルコト明白ナルモノナリト云ハシカレバ誤レルモノナリ何トナレハ選舉權者ニアラストスルハ投票ヲ依頼スル理ナク之ヲ依頼シタリトセハ選舉權者タラサルヘカラス從テ選舉權者ナリヤ否ヤハ投票ヲ依頼シタリヤ否ヤノ事實ヲ定ムヘキ重大ナル點ナリト云ハサルヘカラス而シテ選舉權者ニ對スル饗應ハ夫レ自體直ニ違反(投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的アル以上)ナリト云ヒ得ルモ選舉運動者ニ對シ所謂適當等運動費トシテ支給スルコトハ法ノ禁スル所ニアラサルヲ以テ本件ノ如キ僅少ナル酒食ノ饗應カ實ニアラサルヤ否ヤヲ定ムルニ付テモ重大ナル影響ヲ有スルモノナルヲ以テ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ所論井上留吉渡邊庄之助、山本彌三郎、森拾吉、安田治三郎外數名カ選舉人ナルコトハ所論原審公判調書ニ於ケル各關係人ノ供述ニ自ラ明ナル所ナルヲ以テ原判決ニハ所論ノ如ク虛無ノ證據ニ依リテ事實ヲ認定シタル違法アルモノト謂フヲ得ス論旨ハ理由ナシ

第二點衆議院議員選舉法第一百二十二條第一號第四號ノ饗應ハ所謂適當ノ範圍ヲ超ヘ飲食遊興ニ涉ラサル限リ運動費トシテ法ノ認ムル所ナリト云フ而シテ本件記録ニ

ヨリ明ナル如ク本件酒食ノ饗應ハ僅ニ一圓金四十錢少キハ二十七錢ニ過キシテ運動者ノ空腹ヲ滿スルニ足ラサル飲食物ニ過キス之ヲシモ運動報酬ナリトナサハ運動者ニ對シテモ適當ノ支給ハ半肉ト云ハサルヘカラス唯本件ニ於テハ牛肉葱等ノ外酒ノ供與アリ而シテ酒且空腹ヲ滿スニ過キサルモノト云ヒ難ク且府縣警察ニ於テハ辨當ノ支給ハ可ナルモ酒ハ絕對ニ支給スヘカラストナスヲ常トセリト雖之レ單ニ取締ノ便宜上定メタルモノニシテ牛肉等ノ辨當ハ可ナルモ酒ハ不可ナリト爲ス法ノ規定アルナク要ハ程度ノ大小ニ依ルヘキモノト云ハサルヘカラス而シテ本件ノ如ク僅ニ一、二〇ノ酒ハ單ニ空腹ヲ滿スル同様に効アリテ之カ爲所謂辨當ノ範圍ヲ超エタルモノト云フヘカラス然ルニ之ヲ運動報酬ト認定シタルハ夫レ自體重大ナル事實ノ誤認アリト疑フニ足ルヘシ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ判示四十錢ニ相當スル飲食物ト雖犯人ノ身分境遇其ノ他諸般ノ事情ニ照シテ町村制第三十七條ニ準用セラシル衆議院議員選舉法第一百二十二條第一號ニ所謂適當ト解スルニ妨アルコトナレハ原判決ニハ所論ノ如キ違法存在セス論旨ハ理由ナシ

第三點第二點記載ノ如ク本件饗應ハ其ノ金額僅少ニシテ假ニ法律違反ナリト認メラルモ其ノ犯情甚タ輕微ニシテ之ヲ處罰スヘキ價值アリヤ否ヤモ疑フニ足ルヘキ事案ナルニ然カモ之ニ對シ五ヶ年ノ選舉權被選舉權ノ停止ハ甚タ酷ナリト云ハサルヘカラス第一審ニ於テハ多數ノ共同被告ニ對シ其ノ停止ヲ爲サス獨リ本件

被告兩名ニ對シ之カ停止ヲ爲セルハ刑ノ權衡上ヨリスルモ科刑甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノトスト云フニ在レトモ原判決カ各被告人ニ對シ町村制第三十七條ニ準用セラシル衆議院議員選舉法第三十七條第二項ニ則リ同條第一項ヲ適用シタル旨ノ言渡ヲ爲ササリシト之ヲ目シテ量刑不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト云フヲ得ス論旨ハ理由ナシ

ニ依リテ認定シタル判示第二ノ二事實ハ被告人留吉ハ議員候補者竹次郎ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ昭和八年六月二十五日右竹次郎方ニ於テ渡邊庄之助外數名ノ選舉人ニ對シ右候補者ノ爲宜シク御盡力ヲ願フ旨申向ケテ投票ヲ爲シタリトノ公訴事實ニ付テハ被告人留吉ハ無罪



刑事判例

選舉運動依頼ノ爲ノ個々面接▲老齡ナル市議候補者選舉違反ト其重刑

(五二)

トス而シテ主文末項掲記ノ公訴事實ニ付テハ叙上ノ理由ニ依リ刑罰訴訟法第三百六十二條ニ則リ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス  
檢事 櫻田忠美 關與  
昭和九年七月十四日  
大森院第三刑事部、裁判長 伊藤 清雄  
判事 日高要太郎 判事 草野約一郎  
判事 齋藤 三郎 判事 山下部義夫

●老齡ナル市議候補者ノ選舉違反ト其重刑

昭和九年(九)第五七四號  
本籍並住居 岐阜市八ツ梅一丁目三十一番地  
羅紗販賣業 龜井 敬逸

右市會議員選舉期則違反被告事件ニ付昭和九年四月五日岐阜地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シテ因テ檢事佐々波與次郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ  
【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス  
【理由】 辯護人白木英、田中成彦上告趣意書原判決ハ刑罰ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アリ即チ被告人敬逸ハ七十一歳ニ至レル今日迄未タ一回モ選舉ニ携ハリタルコトナク選舉界ノ實情ニ全く無智無識驗ナル者ナル處偶々一二、三策謀家ニ乘セラレ遂ニ今四行ハレタル岐阜市會議員選舉ニ立候補ノ決意ヲ爲スニ至リタルモノニシテ本件犯罪ニ關シテモ相被告人久作、嘉右衛門、喜市等ニ金員ヲ提供スル以前同人等ヨリ投票取調ヲ爲スヲ以テ其ノ費用ヲ支出スレ度旨

再三懇懇セラレタルニ拘ラス其ノ都度之ヲ拒絶シ居リタルモノニシテ昭和八年六月二十六、七日頃松竹梅(一休)ナル料亭(來ルヘキ旨寺島久作ヨリ招電ヲ受ケ同所ニ赴キタル處既ニ同人ヲ始メ嘉右衛門、喜市等會合シ居リテ再ヒ被告人敬逸ノ爲極力運動スヘキ旨ヲ傳ヘ暗ニ金員ヲ交付スヘキ事ヲ求メ而其ノ翌日嘉右衛門、喜市ノ兩名ハ敬逸ノ宅ヲ訪レ費用ヲ支出スヘキ旨ヲ要求シタルモノニシテ又六月廿八、九日頃久作ニ手渡シタル金員モ同様同人ヨリ要求シタルモノニ係リ本件ニ於テ供與セラレタル金員ハ被告人敬逸ヨリ積極的ニ支出シタルモノニアラスシテ總テ相被告人等ヨリ強要セララルニ至リテ止ムナク支出シタルモノナルニシテ時恰モ選舉當日(昭和八年七月三日)迄僅ニ數日ヲ餘スノミニシテ而モ今四ノ岐阜市會議員選舉ハ議員數三十六名ニ對シ候補者七十六名ノ多キ數ヘ未嘗有ノ激戰ナリシヲ以テ被告人敬逸ニ於テモ未知ノ選舉界ニ立候補シ種々苦惱ヲ重ネ居レル當時ナリシヲ以テ遂ニ本件犯罪ヲ犯スニ至リタルモノナリ且相被告人嘉右衛門ハ被告人敬逸ヨリ受取リタル金八十四圓ノ内僅ニ一圓又喜市ハ金七十圓ノ内僅ニ金八圓四角選舉運動ノ爲支出シタルミニテ他ハ總テ自己ノ爲費消シ居リ同人等ハ其ノ最初ヨリ果シテ敬逸ノ爲選舉運動ヲ爲セントシタルモノナリヤ否ヤ甚タ疑フヘク被告人敬逸ノ本件犯罪ヲ爲スニ至リタル事情洵ニ設懸スヘキモノ多クアルコト一件記録ニ微シ明白ナリトシ然シテ刑事訴訟法第二百七十九條並ニ果犯加重ノ原則ヨリ之ヲ考察スルニ刑罰ヲ裁

定スルニ當リテハ被告人ノ性格年齡犯罪ノ情狀又ハ犯罪ノ再ヒ犯スヘキ恐レアリヤ否ヤヲ判断ノ資料ト爲スヘキモノニシテ之ヲ被告人敬逸ニ就キテ考フルニ同人ハ餘既ニ古稀ニ達シ其ノ犯罪ノ動機又前述セル如クニシテ再ヒ前微ヲ踏ムヘキ恐レナキ者ト謂フヘク之ヲ一般豫防ノ立場ヨリ見ルモ本件ハ市會議員選舉ニシテ衆議院府縣會議員選舉等ニ對比スルニ其ノ犯サルヘキ法益ノ僅少ナルコト言フ俟タサル處ニシテ判例ノ他ニ依ルモ數萬金ヲ供與スルニ拘ラス尙少額ノ罰金刑ヲ以テセララルル例甚クナカラサルニ本件ノ如ク其ノ供與シタル金額モ少ナク殊ニ買收ノ爲用ヒラレタル金員ハ言フニ足ラサル小額ニシテ其ノ犯サルヘキ法益ノ如何ハ論スヘキ價値ナキニ等シキモノナルニ拘ラス八百圓ノ罰金刑ヲ言渡サレタルハ甚シク不當ナリト謂ハサルヘカラ且本件ノ如キ事案ニアリテハ少クとも衆議院議員選舉法第三百三十七條第二項ニ該當スル事由存スルモノナルヲ以テ右規定ニ因リ特別ノ御宣告ヲ賜度候ト云フニ在リ  
【決定理由】 依テ記録ヲ調査シ諸般ノ情狀ヲ參酌考査スルニ被告人敬逸ニ對スル原判決ハ刑罰ノ重過キ刑罰訴訟法第四百三條所定ノ事由アリト認ムルヲ以テ同第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス  
昭和九年六月十一日  
大森院第三刑事部、裁判長 伊藤 清雄  
判事 日高要太郎 判事 草野約一郎  
判事 齋藤 三郎 判事 山下部義夫

本籍並住居 岐阜市八ツ梅町一丁目三十一番地  
羅紗販賣業 龜井 敬逸  
(元治元年六月五日)  
右市會議員選舉期則違反被告事件ニ付昭和九年四月五日岐阜地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ申立テ本院ハ昭和九年六月十一日事實審理ヲ爲スヘキ旨決定シタルニ因リ更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ  
【主文】 原判決ヲ破毀ス  
被告人ヲ罰金三百圓ニ處ス  
右罰金完納スルコト能ハサルトキハ金五圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞務場ニ留置ス  
【理由】 辯護人白木英、田中成彦上告趣意書ハ其ノ理由アルコト前本院ノ決定ニ於テ說明シタルカ如クナリテ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ原判決ヲ破毀シ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス仍テ審按スルニ  
昭和九年七月三日施行セラレタル岐阜市會議員選舉ニ際シ被告人ハ同年六月十三日議員候補者トシテ立候補ノ届出ヲ爲シタルモノナル處自己ニ當選ヲ得ルノ目的ヲ以テ犯意ヲ繼續シテ  
第一、昭和八年六月二十七日頃被告人肩書自宅ニ於テ選舉人永田嘉右衛門同森喜市ニ對シ自己ノ爲投票並投票取調方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ金五百五十圓ヲ供與シ  
第二、原審相被告人寺嶋久作ト共謀ノ上選舉人等ニ被告人ノ爲投票並投票取調方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ金四圓ヲ供與シ

刑事判例

▲老齡ナル市議候補者選舉違反ト其重刑

(五三)

コトヲ企テ久作ニ對シ金七十圓ヲ交付シ久作ハ同年六月二十八日頃岐阜市殿町四丁目四番地ナル同人住居ニ於テ選舉人官部金松ニ對シ及同日頃稻葉郡北長森村淺井邦松方ニ於テ同人ノ手ヲ經テ選舉人久世文七ニ對シ夫々被告人ノ爲投票並投票取調方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ金松ニ對シ金五十圓文七ニ對シ金二十圓ヲ夫々供與シ以テ右共謀ノ犯行ヲ實行シタルモノトス  
(證據略)  
法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ市制第四十條衆議院議員選舉法第二百一十二條第一號刑罰法第五十五條ニ該當スルヲ以テ罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定金額範圍内ニ於テ主文記載ノ罰金ニ處シ刑法第十八條第一項第四項ニ依リ右罰金完納スル能ハサル場合ニ於ケル勞務場留置期間ヲ定メ主文ノ如ク判決ス  
檢事 佐々波與次郎 關與  
昭和九年十月十五日  
大森院第三刑事部、裁判長 伊藤 清雄  
判事 日高要太郎 判事 草野約一郎  
判事 齋藤 三郎 判事 山下部義夫

二百八十七番地  
住居 同縣吉備郡總社町大字總社三番地  
精米業兼穀物商 守 屋 豊  
(明治二十六年三月四日生)  
右贓物牙保被告事件ニ付昭和九年四月九日岡山地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シテ因テ當院ハ檢事棚町文四郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ  
【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス  
【理由】 辯護人星島二郎、深谷茂、前田梅次、深町良平上告趣意書第四點原判決ハ被告人ヲ贓物牙保罪ニ問擬シタルリ然レトモ同罪ハ贓物タル情ヲ知リテ之ヲ買取カ本件記録ヲ調査スルニ(一)本件小麥ハ被告人久作ヨリ周旋ヲ爲シタル際ハ未ダ贓物トナリタルモノニアラス本件ハ木口喜三郎判例小麥ヲ窃取後セントシテ被告人ニ其ノ賣先ノ周旋ヲ依頼シ被告ニ於テ之ヲ承諾シ電話ニテ片山方ニ賣却ノ申込ヲ爲シ片山方商談整ヒタル爲木口喜三郎ニ於テ判例小麥ヲ倉庫等ヨリ持出シ鐵道ニ委託シテ片山方ニ送付シタルコトハ被告人ノ供述第一審公判調書中被告人木口喜三郎ノ供述ニ微シ明カニシテ被告人ノ賣買ノ周旋ヲ爲シタル際ハ判例小麥ハ未ダ贓物トナリタルモノニアラスナリ(二)假ニ判例小麥ハ贓物ナリトスルモ被告人ハ其ノ當時盜贓タル情ヲ知ラサルモノナリ被告人ハ木口喜三郎ヨリ判例小麥ノ賣却周旋方ノ依頼ヲ受ケルヤ被告人ハ木口喜三郎判例小麥ノ出所ヲ確マルルニ木口喜三郎判例小麥カ木

口菊三ヨリ借リ受ケタルモノナリト答ヘタル爲被告人ハ之ヲ信シ賣先ノ周旋ヲ爲シタルモノニシテ被告人ハ贓物タルノ情ヲ知ラサルコトハ第一、二審公判廷ニ於ケル被告人ノ供述ニ照シ明白ナリトス既ニ然リトセハ被告人ノ行爲ハ贓物牙保罪ヲ構成スヘキモノニアラスハ拘ラザルニ原判決ハ此ノ事實ヲ看過シ被告人ヲ同罪ニ問擬シタルハ重大ナル事實ノ誤認アリト疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在リ  
【決定理由】 記録ヲ精査スルニ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ論旨ハ理由アリ仍テ兩論ノ論旨ニ對スル説明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス  
昭和九年六月二十七日  
大森院第三刑事部、裁判長 伊藤 清雄  
判事 日高要太郎 判事 草野約一郎  
判事 齋藤 三郎 判事 山下部義夫

本籍 岡山縣都窪郡常盤村大字溝口  
二百八十七番地  
住居 同縣吉備郡總社町大字總社三番地  
精米業兼穀物商 守 屋 豊  
(明治二十六年三月四日生)  
右贓物牙保被告事件ニ付昭和九年四月九日岡山地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シテ當院ハ同年六月二十七日事實審理ヲ爲スヘキ旨決定ヲ爲シテ因テ判決スルコト左ノ如シ  
【主文】 原判決ヲ破毀ス  
被告人豐ヲ懲役八月ニ處ス  
第一審ニ於ケル未決勾留日數中十日ヲ本刑ニ算入ス  
【理由】 辯護人星島二郎、深谷茂、前田梅次、深町良平上告趣意書第四點論旨理由アルコトハ前掲當院ハ決定ニ於テ説明シタルカ如クナリテ以テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ依リ被告人ヲ懲役八月ニ處スルニ判決ヲ爲スヘキモノトス仍テ審按スルニ  
被告人豐ハ岡山縣吉備郡總社町總社運送店ノ雇人木口喜三郎ニ對シ金松周旋方ヲ依頼シ同人ハ之ニ應ジ奔走シタルモ果サ折柄同人ニ於テ金員ノ必要アリタルヨリ敢テ前記運送店ノ倉庫ニ在リ小麥ヲ窃取シ他ニ賣却シテ金松セントコトヲ企圖シタルモノ自他ニ賣却スルコトノ願ハレニシテ被告人ハ昭和八年八月中前後二回ニ賣却シタル小麥百五十七俵ノ實買契約ヲ締結シタル上喜三郎ニ其ノ旨ヲ告ゲ同人ヲ誘テ倉庫ノ犯意ヲ強固ナラシメ同一倉庫内ニ在リタル同店主保管係各小麥百五十七俵ヲ窃取スルニ至ラシメタルヲ破毀シタルニ係リ  
法律ニ照スニ被告人ノ行爲ハ刑法第六十二條第一項第二百三十五條第五十五條ニ該當スルヲ以テ同法第六十三條第六十八條第三號ニ則リ刑罰法第二百三十五條ノ刑



刑事判例

▲金貨ヲ依リシタル者ノ贓物故買牙保爲ト其ノ罪數▲未完成公務所ノ記録用紙使用ト記録不正使用罪

(五四)

ヲ減額シ其ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役八月ニ處シ同法第二十一條ニ依リ第一審ニ於ケル未決勾留日數中十日ヲ本刑ニ算入シ公訴裁判費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ全部之ヲ被告人ニ負擔セシムヘキモノトス

昭和九年十月二十日  
大審院第三刑事部、裁判長判事森田、清雄  
判事 日高要次郎、判事 草野豹一郎  
判事 香藤 三郎、判事 日下部義夫

●未完成公務所ノ記録用紙使用ト記録不正使用罪

刑法第六十六條第二項所定ハ記録不正使用罪ハ公務所ノ記録トシテ其ノ効力ヲ充タズニ足ル程度ニ完成シタル真正ナル記録ヲ使用スルコトニヨリテ成立スルモノナルカ故ニ未タ其ノ程度ニ完成セサル公務所ノ記録用紙ヲ使用スルカ如キハ同罪ヲ以テ論スルヲ得ス

昭和九年(七)第九七二號

本籍並住居 佐賀縣佐賀郡南川副村 大字犬井道三百七十番地

米穀商 内 田 新

(明治三十四年十月二十三日) 右公務所記録不正使用被告事件ニ付昭和九年六月三十日佐賀地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ヲ破毀ス

被告人ヲ罰金三十四圓ニ處ス 右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人

ヲ勞務場ニ留置ス 【理由】 辯護人阿保淺次郎上告趣意書第一點原判決ハ本件ニ於ケル「昭和八年產佐賀縣穀物検査三等證書」ヲ公務所ノ記録ナリト判示シ被告人ノ所爲ヲ以テ公務所ノ記録ヲ不正使用シタルモノト事實ヲ確定セリ然レトモ公務所ノ記録トハ區別ノ標準ハ單ニ其ノ使用ノ目的如何ニ存シ文書ニ押捺シテ證明ノ用ニ供スルモノヲ公務所ノ印章ト謂ヒ然ラズシテ單ニ產物商品書籍什物等ニ押捺スルモノヲ記號ト云フモ共ニ押捺シテ他ノ物體ノ上ニ現出セシメタル影蹟又ハ其ノ影蹟ヲ現出セシムヘキ物體ヲ指シテハ兩者同様にシテ現出セシメタル影蹟又ハ其ノ影蹟ヲ現出セシムヘキ物體ヲ指シモノナルコトハ殊ニ明シシムヘキ物體ヲ指シモノナル然レニ右「昭和八年產佐賀縣穀物検査三等證書」ハ同縣ノ穀物検査吏員カ縣内生産々米ノ検査ヲ爲シタル後其ノ産米ノ包裝ノ掛繩ニ之ヲ施シ包裝内ノ米ハ(一)佐賀縣穀物検査吏員ノ適法ナル検査ヲ經タルモノ(二)其ノ品質カ何等ニ相當スルモノ(三)其ノ名目表示スルカ如クノ證明書ニシテ其ノ名稱自體ノ示スルカ如クノ紙片ナルヲ以テ押捺ノ結果現出シタル影蹟又ハ影蹟ヲ現出セシムヘキ物體ニモアラサルヲ以テ公務所ノ記録ナリト云フヲ得サルナリ從テ被告人カ原判決ノ如ク賣買支米一部ノ検査ヲ免レント企テ品質四等以下ノ包裝シタル支米四斗八斗十斗ノ各口繩ニ之ヲ附着セシメタルト假定スルモ公

務所ノ記録ヲ不正使用シタルモノト謂フヲ得サルナリ此ノ點ニ於テ原判決ハ重大ナル事實誤認ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト云フニ在レトモ原判決ノ認定シタル事實ハ要スルニ被告人ハ米穀商池田新一ニ對シ支米二百二十噸ヲ賣却シ其ノ引渡ニ當リ右賣買支米一部ヲ検査ヲ免レント企テ其ノ長男岩男等ニ命シ豫テ被告人カ所持シ居リタル判示「昭和八年產佐賀縣穀物検査三等證書」ト刷記セル紙票十枚ヲ品質四等以下ノ包裝シタル支米四斗八斗十斗ノ各口繩ニ附着セシメ該支米十噸ヲ判示諸富倉庫ニ送致シタルト云フニ歸着スルモノニシテ右事實ハ原判決採用ノ證據ヲ綜合シテ之ヲ證明スルニ足リ記録ニ微スルモ右事實ノ認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アルコトナシ尤モ原判決ノ事實理由ノ末尾ニ佐賀縣穀物検査所記號ノ不正使用シタルモノナル旨ノ文詞アルモ右八原審カ單ニ前示ノ具體的事實關係ニ對スル法律上ノ見解ヲ表示シタルニ過キスシテ斯ル事實ヲ認定シタルモノト解スルヲ得ス從テ其ノ認定アリタルコトヲ前提トシテ原判決ノ事實誤認ヲ主張スル論旨ハ其ノ理由ナシ

第二點本件ノ「昭和八年產佐賀縣穀物検査三等證書」ハ公務所ノ記録ニ非サルコトハ第一點所論ノ如シ原判決ノ確定セル事實ニ依リ被告人ハ昭和九年三月池田新一ニ對シ賣渡シタル支米一部ノ検査ヲ免レント企テ品質四等以下ノ包裝シタル支米四斗八斗十斗ノ各口繩ニ右三等證書紙ヲ附着セシメ不正使用シタルト謂フニ在リ果シテ然ラハ被告人ニ對シ昭和六

刑事判例

▲未完成公務所ノ記録用紙使用ト記録不正使用罪

(五五)

用スルコトニ依リテ成立スルモノナルカ故ニ未タ其ノ程度ニ完成セサル公務所ノ記録用紙ヲ使用スルカ如キハ同罪ヲ以テ論スルヲ得サルモノト云ハサルヘカシス而シテ昭和六年佐賀縣令第六十七號穀物検査規則ニ依リ其ノ第十七條ニ於テ穀物検査吏員検査ヲ行ヒタルトキハ票箋ニ検査年月日ヲ記入シテ認印ヲ押捺シ穀物ノ種類及検査等級ニ應ジ包裝ノ掛繩ニ樣式第三號ノ證書紙ヲ施シ包裝面ノ一端ニ左ノ區別ニ依リ所定ノ認印ヲ押捺スヘキ旨規定シアリ尙右樣式第三號證書紙ハ特定ノ樣式ヲ備フヘク之ニ昭和〇年產佐賀縣穀物検査〇等證書紙ト表示スル外検査吏員勤務所名検査年月日検査吏員ノ姓ヲモ記入スルコトヲ要シ若シ其ノ記入ヲ缺クニ於テハ前示穀物検査規則所定ノ證書紙トシテ其ノ効力ヲ充實スルニ足ラズシテ未タ完成ナル證書用紙タルニ過キサルモノト云フヘク從テ斯ル未完成ナル證書用紙ヲ使用シタルハ之ヲ以テ刑法第六十六條第二項ニ該當スルモノト論スルヲ得ス然レニ本件ニ於テ被告人カ判示支米十噸ノ各口繩ニ施シタル判示證書紙ト解スヘキ押収ニ係ル證書第一號證書紙ニ同紙ニハ判示ノ如ク「昭和八年產佐賀縣穀物検査三等證書紙」ト刷記シタルモノニ右穀物検査規則所定ノ検査吏員勤務所名検査年月日検査吏員ノ姓等ノ記入ナキコト明白ナルヲ以テ被告人カ縱令判示ノ如ク同紙ヲ使用シタルトスルモ其ノ所爲ハ前叙ノ理由ニ依リ刑法第六十六條第二項

ニ該當スルモノト爲スヲ得ス又該用紙ハ検査済ノ穀物ニ施サレタル證書紙ニ非サルコト明白ナルヲ以テ之ヲ使用スルモ所論ノ如ク前示穀物検査規則第三十二條第六號ニ該當スルモノニ非サルコト亦疑ナシ、然レトモ被告人ハ原判決認定ノ如ク支米二百二十噸ヲ池田新一ニ賣却シ之カ引渡ヲ爲スニ當リ其ノ一部ノ検査ヲ免レメント企テ品質四等以下ノ包裝シタル支米四斗八斗十斗ノ各口繩ニ附着セシメ之ヲ判示諸富倉庫ニ送致シタルモノナルカ故ニ被告人ハ穀物ノ検査ヲ免ルル爲メ不正使用シタルモノト云フヘク其ノ所爲ハ正ニ前示昭和六年佐賀縣令第六十七號穀物検査規則第三十二條第四號ニ該當スルモノト云フニ在リ從テ第一項適用處斷シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ此ノ點ニ關スル論旨ハ結局其ノ理由アルニ歸シ原判決ハ破毀ヲ免レズ

第三點原判決ハ證據トシテ原審證人東田多一ノ供述ヲ援用シ證書紙ノ不正使用シタルト稱スル十噸ノ支米カ四斗以下ノ品質ナル事實ヲ證據ニ供シタルリ仍テ右調書ヲ閱スルニ「其ノ中證書紙ヲ貼ツテアテ度テ證書紙ノ貼ツテナイ三噸ハ全部等外程度タツタト憶ヒマス(一)〇丁裏」ト記載シアリテ四等程度ノモノハ八噸等外程度ニ依リタル旨ノ供述ニシテ全部四等以下ノモノ即チ四等品ヨリ劣等ノ品質ナリト供述記載ナシ果シテ然ラハ原判決ハ虛無ノ證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アリト云フニ在リ仍テ原審公判調

書ヲ査閱スルニ證人東田多一ノ供述トシテ論旨摘錄ノ如キ記載アルコト明白ナルモ其ノ趣旨トスルコトハ證書紙ノ貼附シタル十噸ノ支米ハ四等程度又ハ同程度以下ノ品質ヲ有スルモノナリト云フニ歸着シ原判決ノ證據説示ト其ノ趣旨毫モ異ルコトヲ原判決ノ所論ノ如キ違法アルモノト云フヲ得ス論旨ハ理由ナシ 第四點原判決ハ事實理由ニ於テ「被告人ハ昭和九年三月初旬……池田新一ニ對シ支米二百二十噸ヲ賣却シ其ノ引渡ニ當リ右賣買支米一部ノ検査ヲ免レント企テ其ノ頃被告人肩書住居前ニ於テ長男岩男等ニ命シ豫テ被告人カ所持シ居リタル佐賀縣穀物検査所吏員カ米ノ検査ヲ爲シ其ノ品位カ昭和八年產佐賀縣產三等ニ相當スルコトヲ證明スルタメ米ノ包裝ニ貼用スル「昭和八年產佐賀縣穀物検査三等證書紙」ト刷記セル紙票十枚ヲ品質四等以下ノ包裝シタル支米四斗八斗十斗ノ各口繩ニ附着セシメ……右佐賀縣穀物検査所記號十枚ヲ一括シテ不正使用シタルモノナリ」トシ被告人ハ長男岩男等ニ命シ昭和八年產佐賀縣穀物検査三等證書紙ヲ支米四斗八斗十斗ノ各口繩ニ附着セシメタリト事實ヲ確定シ之カ證據トシテ第一審第一回公判調書ヲ援用シ「被告人ノ同趣旨ノ供述記載云々」ト説示セリ仍テ右公判調書ヲ閱スルニ「其ノ内七噸ハ本當ノ検査ヲ受ケタモノト三噸検査票カ付イテ居リ殘ニハ付イテ居リマセメテシタル内十噸ニハ私カ荷馬車ノ抽斗ニ入レテ居タル穀物検査所ノ検査證書ヲ取出シテ私ト

依テ主文ノ如シ  
檢事 郡田忠美與

昭和九年十月二十日  
大審院第三刑事部、裁判長判事森田、清雄  
判事 日高要次郎、判事 草野豹一郎  
判事 香藤 三郎、判事 日下部義夫



刑事判例

老婆ノ嫉妬ニ因ル放火ト犯狀

老婆ノ嫉妬ニ因ル放火ト

犯情

昭和九年(九)第八一〇號

判決

本籍 群馬縣多野郡大胡町大字堀越 百四十八番地 住居 同縣佐波郡上陽村大字東緒三 百八十二番地 水車業 茂 木 イ ヲ

右放火被告事件ニ付昭和九年五月二十二日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス 【理由】 辯護人山口與八郎上告趣意書第一點原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト

思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト思料ス原判決ハ被告ニ對シ懲役六年ノ刑ヲ宣告シタリ刑法第八條ハ五年以上ノ懲役又ハ無期若クハ死刑ニ處スル旨規定セルヲ以テ被告ニ對シ懲役六年ノ刑ハ極刑ニ非サルカ如シト雖凡ソ刑ノ量定カ不當ナリヤ否ハ具體的事案ニ付是ヲ檢討セサルヘカラス今茲ニ本件發生ノ原因ヲ研究センニ、被告カ債權者原安明ヨリ所有權移轉請求ヲ訴訟ヲ提起セラレタルコトニ、被告ハ內縁ノ夫久太郎カ債權者安明ト共謀シテ自己所有ノ水車小屋及敷地ヲ横取セント企圖シ居ルカ如ク猜疑想像シ居リタルコト三、之カ原因トナリテ右久太郎ト不和トナリ且其ノ程度ハ日ニ濃厚トナリタルコト四、右久太郎カ債權者安明ノ實跡中島ゆきト私通スルニ至リ遂ニ離別シタルコト五、事件發生當日久

(五六)

シタルモノナルカ故ニ被告ハ此ノ時嫉妬ト想悞トノ最高潮ニ達シ遂ニ正常ノ精神狀態ヲ失ヒ一種ノ心神錯亂ノ程度ニ達シタルモノナリ詳言スレハ本件被告ハ內縁ノ夫久太郎ノ裏切行爲(被告ノ猜疑ニ基ク主觀)ニ因リ失望ト不安ヲ招キ久太郎カ債權者ノ實跡中島ゆきト私通關係ヲ生スルニ至リテヨリハ嫉妬ニ基ク想悞ノ情痛ク高潮ニ達シ久太郎ゆき同舍ノ現場ヲ觀ルニ至リテ遂ニ逆上ノ上本件犯行ヲ敢テ之ヲ決行シタルモノナレハ當時同人カ如何ニ心神ニ故障ヲ惹起シ居リタルヤ想悞ニ難カラサルノミナラス特ニ心神異狀ノ立證ニ俟ツマテモナク斯ノ如キ事實ニ遭遇スル場合ニ於テハ心神ニ異常ヲ呈スヘク又之カ老境ニ至リタル女性ノ通有病的狀態ナリト謂フヘシ從テ裁判所ハ斯ノ如キ事象ノミヲ以テ既ニ刑法第三十九條第二項ニ該當スルモノトシ當然減刑スヘキモノナリ而テ刑ヲ減刑スル場合ハ短期刑ヨリ更ニ減刑スルモノナルヲ以テ第八條ヲ適用處斷セルモノハ五年以下ノ刑期ヲ擇定宣告スヘキモノナルニ原審ハ六年ノ刑ヲ科シ事茲ニ出テサリシハ甚シク不當ノ刑ヲ科シタルモノニシテ且右減刑ノ事由ヲ看過シタルモノハ量刑不當ノ著シキ事由アルモノト云フヘシ仍テ原判決ハ破毀スヘキモノナリト云ヒ

辯護人原安明上告趣意書第三點ハ次ニ被告ノ本件犯罪ニ對スル刑ノ量定ヲ考覈スルニ原判決ハ、被告人ハ懲役六年ニ處ス原審ノ未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入スルト云言渡シテ何等ノ量減輕ヲ爲ササルハ明ナル事實ナリ而シテ本件記録ヲ讀ミ本件被告人ノ經歷ヲ考ヘ本件犯罪ノ動機ヲ沈思默考シテ道義ノ實踐的法則トシテ象徴サレタル刑法各條ニ照シテ本件被告人ニ對スル刑罰ヲ裁定セントスルトキ、被告人ハ其ノ戀ハ情ヲ斷テ切ラレ仇シ、被告中島ユキナル被告人ヨリ歳若キ寡婦ノ許ニ逃レ行ク内縁ノ夫タリシ内田久太郎ノ愛ヲ取返ヘサントシ其ノ家ヲ燒キテ同人ニ約千二百五十圓ノ損害ヲ蒙ラシメタルモ其ノ原因ハ被害者内田久太郎カ被告人ヲ遺棄シ虐待シタルコトニ始マリ久太郎ノ人情ヲ無視シタル行爲即チ訴訟ニ於ケル原告請求ノ認諾ヤ訴訟ノ相手方ナル原安明ノ紳中島ユキト情交ヲ結フ等被告人ヲシテ一層精神的ニ傷ヘシメタルコトニ在リ本件犯罪ノ責任ノ半ハ被害者久太郎ノ負擔セサルヘカラスルノ事情アリ(民法第七二條第二項ノ精神)ニ、被告人カ内田久太郎ト内縁關係ヲ結ビシハ被告人ノ淫蕩性ヨリ出テタルニ非スシテ被告人カ再度ノ後家トナリ社會ニ於ケル寡婦トシテノ苦惱者タリ弱者タルノ苦痛ノ體驗ヨリシテ「私ハ四十四歳ノ時ニ以前ノ内縁ノ夫ニ死別シテカラテ供ヲ相手ニ獨身テ水車業ヲ營ンテ居リマシタルカ内田久太郎和二年二月ニオ女將サンニ死別シテ獨身テ居ツテ私方ノ水車小屋ニ來テ米ヲ搗キマシタルコトカラ知合ニナツテ小サイ子供ヲ抱ヘ因ツテ居ル事情等ヲ話合ヒ自分ノ過去ノ事カ出テ同情スル様ニナツテ内田久太郎ノ屢々出入スル様ニナツテオ互ニ同情シ合ツテ情交關係ヲ結フ様ニナリマシタル」第二審公判調書記録(四五四丁)トアル如ク久太郎ニ同情シタル結果ナルニ久太郎ハ被告人ヲ嫁ヒ若キ女性ヲ求メテ走リ三、被告人ハ十

九歳ノ時ヨリ二十四、五歳迄神經衰弱ノ爲ニ青春ノ時期ヲ徒過シ其ノ間嫁人シタルモ二年ニシテ離別シ其ノ後諸所ヲ女工トシテ働キ廻リシ後二十七、八歳ノ頃前橋市ニ於テ茂木福也ニ嫁シタルモ三十七歳ノ時死別シ人生最大ノ苦痛ニ遭遇シ超ニテ四十歳ノ時高橋吾吉ノ内縁ノ妻トナリタルモ同人亦被告人ノ内縁ノ妻トシテ死亡シ四十七歳ノ時内田久太郎ト内縁關係ヲ結フニ至リタルカ同人トハ喧嘩別レトナリ被告人ハ訴訟費用調達ノ爲ニ只一人ノ娘茂木たつヲ酌給ニ賣リ人生ニ於ケル苦難ト云フ苦難ヲ一人ニテ背負ヒタリ誰カ天ヲ恨ミ人ヲ恨マサルヲ得ンヤ四、夫レニ被告人ハ經濟ノ上ニ於テ其ノ所有ノ土地家屋ハ内田久太郎トノ共同負債ノ爲ニ訴訟ニヨリテ今ヤ手ニ渡ラントシ水車業ノ爲ノ借入金六百三十圓(豫審被告人第一回訊問調書五、六問答)ノ返済ハ勿論不可能トナリ水車小屋ヨリノ立退キ命令ハ目睫ニ迫リ被告人一家ノ死活問題ハ展開セラルル等經濟的痛心事ヲ見ルニ至リ五、其ノ他上告趣意書第一點ニ於テ説述シタルカ如キ被告人ノ精神ヲシテ意識濁濁ト興奮状態ニ陥ラシムヘキ幾多ノ事情相續イテ發生スル等犯罪ノ情狀惘諒スヘキモノアルニ拘ラス原審ハ何等ノ量減輕ヲ爲サスシテ被告人ニ對シ懲役六年ノ刑ヲ言渡シタルハ刑ノ量定甚シク不當ニシテ到底破毀ヲ免レサルモノト思料ス以上ノ如キ理由アルカ故ニ莫クハ御院ニ於テ世ノ最大ノ弱者タル被告人ニ對シ刑法ノ大精神タル仁慈ノ至徳ヲ以テ臨マレ原判決ヲ破毀シ更ニ相當刑罰ヲアランコトヲ願ヒ茲ニ上告趣意ヲ具陳スル次第仍テ事實ノ審理ヲ爲スニ

ナリト云フニ在リ

【決定理由】 仍フテ記録ヲ精査シ諸般ノ情狀ヲ參酌スルニ原判決ノ量刑ハ甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト認ムヘキヲ以テ論旨ヲ理由アリトシ刑事訴訟法第四百二十二條第四百四十三條ニ依リ主文ノ如ク決定ス

昭和九年九月六日

大審院第二刑事部、裁判長列事清水 孝藏

列事 江崎定次郎 列事 尾佐竹 猛

列事 磯田 嘉七 列事 山内 養一

被告ノ人ハ寡婦トシテ水車業ヲ經營シ居リシカ昭和三年一月群馬縣佐波郡上陽村大字中内三十三番地内田久太郎ト私通シ昭和五年二月式ヲ舉ケ内縁ノ妻トナリタルカ同年五月久太郎ト共同ニテ被告人居住ノ水車小屋並ニ其ノ敷地ヲ買受タルニ當リ其ノ資金ニ充テル爲久太郎ト連帯シ該土地建物ヲ抵當トシテ栗原安明ヨリ金二千百餘圓ヲ借受ケタリシカソノ借濟滯リシ爲昭和六年十月右安明ヨリ該土地建物所有權移轉登記請求ヲ訴訟ヲ提起セラレシニ被告人ハ久太郎カ該訴訟ニ於テ安明ト通謀シ右財産ヲ奪ハントスルモノト思惟シ久太郎ト確執絶エサルシカ加之久太郎カ昭和八年一月頃ヨリ右安明ノ姉中島ゆきト私通セシヨリ益々不和ヲ來シ同年八月終ニ久太郎ト絶縁スルニ至レリシカ同年十二月二日夜久太郎カゆき方ニ於テ同人ト同舍シ居ルヲ現認シ憤懣ノ情ニ堪ヘス久太郎ノ居宅ヲ燒燬シテ怨ヲ露サント決意シ同夜十一時頃頃前記久太郎居宅棟キナル既ニ二階ニ至リ携ヘ行キシ蠟燭ニ燭寸ヲ以テ點火シ之ヲ同所ニ在リタル棧俵ノ上ニ立テ置キタルヨリ火ハ籠テ棧俵ヨリ附近ノ空俵等ニ燃エ移リ因テ同人所有ノ木造藥肆二階建居宅一棟及附屬物置二棟ヲ全燒スルニ至リタルモノト

右事實ニ付テハ

一、被告人ノ當公証ニ於ケル自白

一、證人内田久太郎豫審訊問調書中昭和八年十二月三日午前一時頃判示私方居宅並物置ハ全燒シタリ私ハ昭和三年頃ヨリ茂木イワト私通シ昭和五年二月正式ニ結婚披露ヲ爲シ同年夏頃ヨリ同人ト不

和ニナリ私ハ又昭和八年九月頃ヨリ中島ゆきト關係シタリイワトハ夫婦別レ爲シタリシカ猶本同人ハ未練アルカ如キ態度ナリシトノ旨ノ供述記載

トヲ綜合シ其ノ證明十分ナリトス

辯護人ハ被告人ハ本件犯行當時心神耗弱ノ状態ニアリタルモノナル旨主張スレトモ本件證據ニ依ツテハ未タ以テ其ノ程度ニ達セルモノト認ム難キヲ以テ該主張ハ之ヲ採用セス

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第八條ニ該當スルモ被告人ハ其ノ愛情ヲ裏切ラレ刺ヘキノ生命ニモ比スヘキ執着ヲ有セル財産ヲ奪取セラレルモノナリト思惟シ憤悶懊惱ハ極ニ本件犯行ニ及ビタルモノニシテ其ノ情狀惘諒スヘキモノアルヲ以テ刑法第七十一條ニ依リ酌量減輕ヲ爲シ被告人ヲ懲役三年ニ處シ刑法第二百一條ニ依リ第一審ニ於ケル未決勾留日數ヲ本刑ニ算入シ刑事訴訟法第二百三十七條ニ依リ訴訟費用ハ全部被告人ニ負擔セ

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ依リ主文ノ如ク判決シタリ

昭和九年十月二十二日

大審院第二刑事部

列事 江崎定次郎 列事 磯田 嘉七

列事 山内 養一

裁判長列事清水孝藏列事尾佐竹猛並付署名捺印スルコト能ハス

刑事判例

老婆ノ嫉妬ニ因ル放火ト犯狀

(五七)

被告ノ人ハ寡婦トシテ水車業ヲ經營シ居リシカ昭和三年一月群馬縣佐波郡上陽村大字中内三十三番地内田久太郎ト私通シ昭和五年二月式ヲ舉ケ内縁ノ妻トナリタルカ同年五月久太郎ト共同ニテ被告人居住ノ水車小屋並ニ其ノ敷地ヲ買受タルニ當リ其ノ資金ニ充テル爲久太郎ト連帯シ該土地建物ヲ抵當トシテ栗原安明ヨリ金二千百餘圓ヲ借受ケタリシカソノ借濟滯リシ爲昭和六年十月右安明ヨリ該土地建物所有權移轉登記請求ヲ訴訟ヲ提起セラレシニ被告人ハ久太郎カ該訴訟ニ於テ安明ト通謀シ右財産ヲ奪ハントスルモノト思惟シ久太郎ト確執絶エサルシカ加之久太郎カ昭和八年一月頃ヨリ右安明ノ姉中島ゆきト私通セシヨリ益々不和ヲ來シ同年八月終ニ久太郎ト絶縁スルニ至レリシカ同年十二月二日夜久太郎カゆき方ニ於テ同人ト同舍シ居ルヲ現認シ憤懣ノ情ニ堪ヘス久太郎ノ居宅ヲ燒燬シテ怨ヲ露サント決意シ同夜十一時頃頃前記久太郎居宅棟キナル既ニ二階ニ至リ携ヘ行キシ蠟燭ニ燭寸ヲ以テ點火シ之ヲ同所ニ在リタル棧俵ノ上ニ立テ置キタルヨリ火ハ籠テ棧俵ヨリ附近ノ空俵等ニ燃エ移リ因テ同人所有ノ木造藥肆二階建居宅一棟及附屬物置二棟ヲ全燒スルニ至リタルモノト

右事實ニ付テハ

一、被告人ノ當公証ニ於ケル自白

一、證人内田久太郎豫審訊問調書中昭和八年十二月三日午前一時頃判示私方居宅並物置ハ全燒シタリ私ハ昭和三年頃ヨリ茂木イワト私通シ昭和五年二月正式ニ結婚披露ヲ爲シ同年夏頃ヨリ同人ト不

和ニナリ私ハ又昭和八年九月頃ヨリ中島ゆきト關係シタリイワトハ夫婦別レ爲シタリシカ猶本同人ハ未練アルカ如キ態度ナリシトノ旨ノ供述記載

トヲ綜合シ其ノ證明十分ナリトス

辯護人ハ被告人ハ本件犯行當時心神耗弱ノ状態ニアリタルモノナル旨主張スレトモ本件證據ニ依ツテハ未タ以テ其ノ程度ニ達セルモノト認ム難キヲ以テ該主張ハ之ヲ採用セス

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ依リ主文ノ如ク判決シタリ

昭和九年十月二十二日

大審院第二刑事部

列事 江崎定次郎 列事 磯田 嘉七

列事 山内 養一

裁判長列事清水孝藏列事尾佐竹猛並付署名捺印スルコト能ハス



刑事判例

被告ノ辯解ノ眞實性

昭和九年(九)第四九七號

本籍並住居 大分縣直入郡豐岡村大字飛田川二十三番地

備後 青山 映道

(明治五年八月一日生)

右業務上横領被告事件ニ付昭和九年三月十六日大分地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタルリ因テ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 辯護人作間耕造上告趣意書第一點原判決ハ左記ノ諸點ニ於テ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト信ス即チ(一)判示第一事實中ノ剩餘金額中被告及其ノ家族ノ加入ニ屬スル三十一口ノ講金ハ落札ニシテ後ノ掛戻金ヲ實際拂込タルモノニアラスシテ單ニ被告本人ニ於テ徵收簿ニ捺印シ現收ヲ假裝シタルモノニ過キサレコトハ原審第一回公判調書ニ於ケル記録第三六二丁乃至第三六五丁ノ供述記載ニ依リ明白ニシテ尙ホ第一審以前ノ取調ニ依リ明白ニシテ尙ホ第一審以前ノ取調ニ際シ之ニ反スル趣旨ノ自供ヲ爲シタル事情ニ付テモ聲明セシ所ナリ即チ被告本人及其ノ家族ノ三十一口ハ單ニ講金ニ對シ拂込ムヘキ掛戻金債務ノ不履行ニ過キサス(三十一口ノ掛戻金ノ未拂込額ハ六千四百九十圓ナリトス)之ヲ被告本人カ費消シタルトスルモ此ノ分ニ付テハ自己ノ資金ヲ自己ノ用途ニ充テタルト云フニ過キサシテ全ク刑罰ノ構成スヘキ問題ニアラス然ルニ原判決ハ此ノ部分ヲ區別

シテ之ヲ除外スルコトヲ爲サス單ニ臺帳面ノ記載數字ニ基キ事實ヲ談話會ニ屬セサル金額ニ就キテモ詐欺罪ヲ以テ處分セラレタルハ失當ナリ(二)判示第二ノ事實ニ付本講ノ落札者又ハ當議者カ講金ヲ受取ルニ當リテハ被告本人協談會ノ上別紙寫書(第一號)ノ借用金證書ニ徵シ其ノ提供シタル擔保金ニ付テハ擔保金提供者ニ對シ被告本人ヨリ別紙寫書(第二號)ノ預り證書ヲ交付シ來レルモノニシテ而シテ右借用證書中ニハ擔保物ハ「費下ニ任意處置セシメ該利息ヲ以テ第一項ノ返済金(毎年三、九、十二月ノ各十五日ニ金十圓宛)ニ充ツルコトヲ一任ス尙中途取扱上ノ異議又ハ變更申立テサルコトヲ特約ス」尙ホ擔保物「保管換其ノ他取扱方法ハ總て費下ニ一任ス」ト明記シアリ又預り證書中ニハ擔保金「保管換又取扱方法ハ當方ニ於テ任意處置シ本講満了ノ後(又ハ特定ノ期限)ニ元金返還可致」ト明記シアリテ全ク民法上ノ消費寄託關係ニ屬セハ講規則第十八條第七項但書ニハ之ニ異ナル規定存シテ事實ニ行ハレ來リタル所ハ即チ以上證書ノ交換所持ニ依リ成立シタル被告本人擔保提供者ノ契約ニ依ルモノニシテ被告本人講會ノ幹事副長トシテ契約履行ノ責任任スヘキ義務アリ即チ此契約ヲ講規則違反ト認マラレ行政處分ノ責任任スヘキモノナリトスルハ格別實際上ニ於テ被告本人義務違反以上之横領罪ノ刑事責任ヲ科セラルヘキアラサルナリ況ンヤ規規約第十八條第七項但書ニ依リ銀行ノ定期預金ト爲シ講會ニ於テ其ノ利息ヲ隨時受取り掛戻金ニ充用スヘキシトスルモノ銀行ノ利息ハ低率ニ

シテ到底掛戻金ニ足ラス且其ノ利息ノ清算期ハ掛戻金ノ拂込期ト一致セザル爲處理上ノ不便甚シキモノアリ如上止ムラ得サル事由ノ爲擔保提供者モ掛戻金ノ拂込ノ金額ト時期トニ都合ナキ様之ヲ被告本人ノ處理ニ一任セリト認ムヘキ實情アルニ於テオヤ且實際ニ於テモ被告本人自己ノ掛戻金ハ後廻シトスルモ擔保提供者ノ掛戻金ニ付テハ利息收入ノ不足スト又其ノ時期ノ如何ヲ問ハス之カ拂込ヲ了シ居レルモノナリ然ルニ原判決ハ此ノ重要ナル事實ニ基カスシテ單ニ規約ノ表面ヨリシテ横領罪ヲ以テ問擬セラレタルハ失當ナリ(三)判示第二事實ニ付擔保金七千六百圓ノ中四千圓ハ前住職カ寺ノ爲ニシタル借入金ノ内入辨濟並ニ寺ノ庫裡ノ修繕ニ費用シタルコトハ原審公判調書(第三六七丁以下)ニ於ケル被告ノ自供ニ徵スルモ記録上明確ナル所ナリ而シテ自己ノ占有セル他人ノ所有物品ノ内一部ヲ自己ノ爲ニ費消セル場合ニ其ノ全部ニ付横領罪ノ成立スルハ其ノ區別清算ヲ明ニ爲シ得サル場合ニ限ルヘキハ勿論ニシテ一部ノ横領タルコト計算上明確ナル場合ニ於テ其ノ全部ニ付横領ノ罪責ヲ科スルハ法旨ニ反スルモノナラス一觀ノ條理社會ノ通念ヨリスルモ非違ナルモノト謂ハサルヲ得ル而シテ此點ハ犯罪ノ成否ニ關スル外其ノ量刑ニモ重大ナル影響アルヘキ事項ナリトスト云フニアリ

【決定理由】 按スルニ原判決ハ其ノ第一事實ニ於テ被告本人ハ大泉寺頼母母子講幹事副長トシテ業務上保管セル右講會ニ屬スル金員中一萬六千五百圓六十六錢ヲ擅ニ横領費消シタル旨判示シ右一萬六千五百圓十六錢中ニハ被告本人及其ノ家族等ノ加入ニ係ル三十一口ノ講金掛戻金ヲ現實拂込ミタルモノト爲シ之ヲ加算セルコト記録上明白ナリ然ルニ右三十一口ノ關スル掛戻金ハ實際拂込マラタルモノニ非スシテ單ニ被告本人ニ於テ徵收簿ニ捺印シ現收ヲ假裝シタルモノニ過キサレコト被告本人ノ原審ニ於テ辯解スル所ニシテ記録ニ徵スルモ右辯解ハ必シモ之ヲ虛偽ナリト連斷スヘカラサルモノナリ若シ右被告本人ハ辯解スルカ如キ事實アリトスレバ判示第一事實ノ被告本人横領金額ハ多大ノ減額ヲ見ルヘク從テ量刑ニモ相當影響ヲ及ボスヘキモノト認ムルヲ以テ原判決ハ此ノ點ニ於テ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ事由アルモノトスト仍テ兩餘ノ上告論旨ニ對スル說明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百三十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和九年六月十四日

大審院第二刑事部

判官 尾佐竹 嘉七

判官 尾佐竹 嘉七

判官 山内 操一

判官 山内 操一

本籍並住居 大分縣直入郡豐岡村大字飛田川二十三番地

備後 青山 映道

(明治五年八月一日生)

右業務上横領被告事件ニ付昭和九年三月十六日大分地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告本人ハ上告ヲ申立テ本院ハ昭和九年六月十四日事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨決定シタルニ因リ更ニ審理ヲ

遂ケ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ヲ破毀ス

被告本人ヲ懲役一年ニ處ス

但二年間本刑ノ執行ヲ猶豫ス

訴訟費用中武吉吉太郎ニ支給シタル分ハ被告本人ノ負擔トス

【理由】 辯護人作間耕造上告趣意書第一點ハ其ノ理由アルコト前示決定ニ說明シタルカ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ原判決ヲ破毀シ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘキモノトスト云フニ過キサレ

被告本人ハ大分縣直入郡豐岡村大字飛田川天台宗大泉寺住職ニシテ大正八年中右寺院ノ境内擴張本堂修理等寺院維持ノ目的ヲ以テ大泉寺頼母母子講(現在講員約五百名口數六百七十七口)毎季三月九月十二月各十五日開座毎回掛金一口ニ付金十圓毎會座抽籤及入札ノ方法ニ依リ一定ノ金額ヲ當議者落札者ニ交付スルノ規定ノ組織セララルヤ其ノ幹事副長(講ノ世話人トモ稱ス)トナリ右講會ノ規約上講會ノ權限ヲ有スル幹事長兼福太郎ノ委任ニ依リ其ノ代理人ト爲リ業務トシテ右講會ノ掛金ノ取立剩餘金ノ保管及當議者又ハ落札者ヨリ掛戻金擔保ノ爲講會ニ提供スヘキ擔保金ノ保管等講會ノ會計事務擔當中第一、大正八年十月二十五日以降昭和八年三月十五日(第四十三會座)迄ノ間ニ於テ講員ヨリ取立テタル掛金其ノ他講會ニ歸屬シタル剩餘金中合計三千五百九十五圓六十六錢ヲ其ノ頃數十圓ニ居村等ニ於テ擅ニ自己及家族ノ用途等ニ費消横

第二、大正十年一月十二日以降昭和七年十二月十五日迄ノ間ニ講員徳丸彌五郎外十三名(口數合計十一口)カ講規則ニ依リ同人等ノ落札及ハ當議ニ依リ交付金ニ對スル掛戻金擔保ノ爲講會ニ提供シタル擔保金合計金六千五百四十四圓ヲ受取り保管中其ノ頃數十圓ニ居村等ニ於テ擅ニ自己及家族ノ用途ニ費消横領シタルモノニシテ前示各行爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

以上ノ事實ハ被告本人ノ當公廷ニ於ケル判示冒頭及第二事實ノ同趣旨並原判決力第二、三判示シタル擔保金七千六百圓ノ内首藤香玉分八百六十圓及後藤圭馬夫分ノ内二百圓ハ債務及ハ融通金ト差引計算セルモノニシテ現實現金ヲ受取りタルニ非ス其ノ他ノ分ハ總て之ヲ受取りテラ判示ノ如ク自己及家族ノ用途ニ費消シタルコト相違ナキ旨ノ供述及第一審第一回公判調書中擔保金ハ世話人ニ於テ隨意處分シテ可ナル旨提供者ノ間ニ謗合アリタルモ被告本人一己ノ私ノ用途ニ費消シテ可ナリト談合ニ非サル旨ノ被告本人ノ供述記載ト同趣旨之反復陳述セラレタル事實自體犯意繼續ノ事實ヲ認ムヘキトニ依リ其ノ證明十分ナリトス

法律ニ照スニ被告本人ノ所爲ハ刑法第二百五十三條第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ刑罰範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定シ尙執行猶豫アリハヘキ情狀アリト認メ刑法第二十五條ニ依リ二年間本刑ノ執行ヲ猶豫シ刑事訴訟法第二百三十七條ニ依リ訴訟費用ノ一部ヲ被告本人負擔セシムヘキモノトシ主文ノ如ク判決ス

昭和九年十月二十二日

大審院第二刑事部

判官 江崎定太郎

判官 嘉七

判官 山内 操一

判官 山内 操一

判官 嘉七

判官 嘉七

判官 山内 操一

判官 山内 操一

判官 嘉七

判官 嘉七

判官 山内 操一

判官 山内 操一

判官 嘉七

判官 嘉七

判官 山内 操一

判官 山内 操一

判官 嘉七

判官 嘉七

判官 山内 操一

判官 山内 操一

判官 嘉七

判官 嘉七

判官 山内 操一

判官 山内 操一

判官 嘉七

判官 嘉七

判官 山内 操一

判官 山内 操一

判官 嘉七

判官 嘉七

判官 山内 操一

判官 山内 操一

判官 嘉七

判官 嘉七

判官 山内 操一

判官 山内 操一

判官 嘉七

判官 嘉七

警察署認可營業者規定料金ハ上半身按摩術一回ニ付金三十錢以内ニシテ普通金二十五錢也)右事實ヲ以テ香川縣佛生山警察署ニ於テ按摩術營業取締規則違反者トシテ御取調ヘテ受ケ高松區裁判所檢事局ニ一件書類ヲ送局サレ第一審第二審共ニ有罪ノ判決ヲ受ケタリ二、理由(一)按摩術營業者ノ徒弟ナルコト自分儀ハ昭和四年四月一日以來現在ニ至ル間香川縣高松市今新町二十八番地甲種按摩術營業者大熊久次郎ニ就キ乙種按摩術ヲ修業中ナリ(二)師ノ監督ノ下ニ在ルコト師ノ直接監督ノ下ニ在ル時ハ格別ナルモ其ノ他ハ常ニ師ヨリ嚴キタル按摩術修業證明書ヲ受テ按摩術營業者ノ徒弟タルコトヲ證明シタル師ノ證明書ヲ携帶シ居リタリ(右ハ內務省衛生局長ヨリ大正五年二月三日警視廳監究回答ニ依リ可ク監督ノ下ニ在ルモノトシテ認容相成可キハ明白ナリ)

(三)實地練習ナルコト自分儀ハ現在迄ニ二度大阪府ニ於テ乙種按摩術檢定試験ヲ受驗ナシタルモ不幸ニ四共學說ハ合格シ實地ニ於テ不合格ト爲リタリ右ニ依リ極力之カ實習ヲ爲スニ要ス迫ラレタルヲ以テ師ヨリ健康者又ハ罹病者ノ慰安的按摩ニ限リ實地練習ヲ爲ス事ヲ許可セラレ居ルモノニシテ本件ノ如キモ右實地練習ヲ爲シ居リタルモノナリ(四)營利行爲ニアラサルコト自分儀ハ按摩術實地練習ヲ爲スモノニシテ營業者ニアラサルヲ以テ被按摩者ニ對シ施術料金幾何ナリトシテ施術ヲ爲シタルコトヲ示シ現在迄ノ報酬ハ上半身一回金十五錢也又或時ハ「バット」リ又ハ五錢或ハ十錢又或時ハ「バット」

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 被告本人上告趣意書昭和九年四月五日高松地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告本人ハ上告ヲ爲シタルリ因テ檢事署文ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

【主文】 被告本人ヲ懲役二年ニ處ス

但三年間本刑ノ執行ヲ猶豫ス

訴訟費用中被告本人ニ負擔セシム

右按摩術營業取締規則違反被告事件ニ付昭和九年四月五日高松地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告本人ハ上告ヲ爲シタルリ因テ檢事署文ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

被告本人ハ大分縣直入郡豐岡村大字飛田川天台宗大泉寺住職ニシテ大正八年中右寺院ノ境内擴張本堂修理等寺院維持ノ目的ヲ以テ大泉寺頼母母子講(現在講員約五百名口數六百七十七口)毎季三月九月十二月各十五日開座毎回掛金一口ニ付金十圓毎會座抽籤及入札ノ方法ニ依リ一定ノ金額ヲ當議者落札者ニ交付スルノ規定ノ組織セララルヤ其ノ幹事副長(講ノ世話人トモ稱ス)トナリ右講會ノ規約上講會ノ權限ヲ有スル幹事長兼福太郎ノ委任ニ依リ其ノ代理人ト爲リ業務トシテ右講會ノ掛金ノ取立剩餘金ノ保管及當議者又ハ落札者ヨリ掛戻金擔保ノ爲講會ニ提供スヘキ擔保金ノ保管等講會ノ會計事務擔當中第一、大正八年十月二十五日以降昭和八年三月十五日(第四十三會座)迄ノ間ニ於テ講員ヨリ取立テタル掛金其ノ他講會ニ歸屬シタル剩餘金中合計三千五百九十五圓六十六錢ヲ其ノ頃數十圓ニ居村等ニ於テ擅ニ自己及家族ノ用途等ニ費消横



刑事判例

無免許ノ按摩ト犯罪ノ無證明

一個等ノ事モアリタリ要スルニ常ニ被施術者ニ於テ御厚志ノアル場合ハ任意ニ任意額ノ謝禮又ハ報酬ヲ受クルノミナリ(東京地方ニ於テハ俗ニ流シト稱シ價值觸レシテ例ハハ二百文、四百文、六百文八百文、一貫、一貫五百文等ト道路ヲ徘徊スルモノサヘアリ又岡山縣立盲啞學校ニ於テハ教諭監督ノ下ニ生徒ニ按摩術實地練習證明書ヲ交付シ縣警察部ノ認可ヲ得テ普通料金全身一回ニ付金五十錢也ト料金ヲ定メ客ノ需ニ應ジ居レリ之ヲ考フル時自分等ノ如ク被施術者ヨリ任意ニ任意額ノ謝禮又ハ報酬ヲ受クルハ之營利行爲ニアラサルモノト思料スル)故ニ營利行爲ニハ非ス右事實並理由ニ據リ考フルニ右行爲ハ按摩術營業ニアラスト思料致サレマス即チ大正二年九月九日付衛第四七八號大阪府知事照會内務省衛生局長回答ニ明記ノ通り按摩術營業取締規則第一條ノ範圍外トシテ取扱ハルヘキモノナリト信スルノテアリマス若シ右事實並理由ニ據ルモ尙違反トナランカ自分等如キ盲人ニシテ學校ニ入ル實力サヘ無キ者ハ盲人ノ唯一ノ天職タル按摩術營業者トシテモ實地練習ノ機會少ク試驗合格迄ニハ長日月ヲ要シ其ノ日ノ糊口ニモ苦シム事ハ大ヲ見ルヨリモ明ナリ要スル自分等徒弟ノ實地練習ハ必要上止不得モノト思料致サレマス以上述ヘマシタ様次第テ自分等ハ本件ハ絕對ニ無罪ナリト信シ又無罪ノ判決ヲ下サルモノト思料シ刑事訴訟法第四百十二條ニ依リ上告致シマシタ次第アリマス云云云云

昭和九年(九)第五二八號 本籍 香川縣香川郡佛生山町大字百相番地不詳 住居 同縣同郡淺野村字伽羅土千二百九十四番地 按摩術徒弟兼日稼 米市事 太田 米一 (明治四十二年十月十日) 右按摩術營業取締規則違反被告事件ニ付昭和九年四月五日高松地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ當院ハ同年六月十九日事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ノ決定ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ 【主文】 原判決ヲ破毀ス 被告ハ無罪トス 【理由】 被告ハ上告趣意書ノ論旨理由アルコトハ前掲當院判決ニ於テ説明スル如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ基キ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス 仍テ審按スルニ 本件公訴事實ハ被告ハ按摩術營業ノ免許證ヲ受ケ居ラサルニ拘ラス昭和八年十月月中旬頃ヨリ昭和九年二月上旬頃ニ至ル迄ノ間前後數十回ニ亙リ香川縣香川郡

淺野村字伽羅土十河イ方敷數個所ニ於テ同人外十數名ニ對シ一回ニ付料金十錢位宛テ按摩術ヲ施シ以テ按摩術營業ヲ爲シタルモノナリト云フニ在リトモ被告ハ對シ犯罪事實ハ之ヲ認ムヘキ證明ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス 以上ノ理由ニ依リ主文ノ如ク判決ス 檢察廳頭文關與 昭和九年十月二十三日 大審院第四刑事部、裁判長野村野三郎 判事 中尾 芳助 判事 沼 義雄 判事 赤羽 照 判事 岸 達也 昭和九年(九)第八三二號 本籍 奈良縣山邊郡丹波市町大字川原城四十五番屋敷 住居 同縣同郡同町大字九十六番地ノ二 農兼煙草小賣 楠 本 忠 次 (明治三十六年十月十九日) 右詐欺未遂被告事件ニ付昭和九年五月二十九日奈良地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢察廳長廣政ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ 【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス 【理由】 辯護人川島常三郎、横山鎮太郎島田正純上告趣意書第三點ハ凡ソ裁判所ヲ欺クシテ財物ヲ騙取セントスル場合ハ行爲者ニ於テ當該訴訟ノ請求原因タル事實ノ虛偽ナルコトヲ認識シテ行ハテテ訴訟ヲ遂行スルコトニ因リテ詐欺罪ノ成立

アルモノトス蓋シ若シ然ラストスレハ原告カ收訴スル場合ハ總ヘテ詐欺罪ノ成立アリトスル不合理ヲ生スレハナリ從テ行爲者カ該事實ノ虛偽ナルコトヲ認識シタル事事實即チ欺罔シタルトスル事實ハ詐欺罪トシテ罪トナルヘキ事實ナルコトハ言フ俟タス故ニ有罪ノ言渡ヲ爲スニハ此罪トナルヘキ事實ヲ證據ニヨリテ認メタル理由ヲ判示セサルヘカラス然ルニ原判決ハ本件第一起訴事實ニ付テハ被告カ告訴當時告訴ノ内容タル事實ノ虛偽ナルコトニ付證據有シ居リタリト認ムヘキ證據十分ナラストシ第二起訴事實ニ付テハ第一起訴事實タル告訴事件ハ被告カ米藏ノ爲ニ金千圓ヲ融通シタル事跡ナシト認旨ノ下ニ昭和五年四月末日頃不起訴處分ヲ爲リ其ノ旨被告ハ對シ告知アリタルコト及ヒ該告訴事件ニ付屢々各關係人ト共ニ取調ヲ受ケタルコトトニ因リテ被告ハ右米藏ニ對シ何等ノ債權ヲ有スルモノニアラサルコトヲ熟知スルニ至リタル旨ヲ判示セラレタリ然レトモ本件起訴事實カ第一第二共ニ被告人カ乾米藏ニ對シ金千圓ヲ融通シタル事ト基礎ノ上ニ立脚シ且第一起訴事實ニ付被告人カ告訴當時告訴ノ内容タル事實ノ虛偽ナルコトニ付證據有シ居リタリト認ムヘキ證據十分ナラサル以上被告人カ第二起訴事實タル右乾米藏ニ對シ千圓ノ債權アリトシ民事訴訟ヲ提起シ以テ其ノ黑白ヲ明ニセンコトヲ求ムルハ固ヨリ被告人ノ當然ノ權利ニシテ何等ノ當然ナルコトナラズ第二起訴事實ニ付テモ亦同様に推斷ヲ爲スヘキハ理ノ當然トスルコトコトナリ然リ而シテ原判決ハ此點ニ付被告

刑事判例

詐欺罪ト犯罪ノ無證明

人カ米藏ノ爲ニ金千圓ヲ融通シタル事蹟ナシト認旨ノ下ニ不起訴處分ヲナリ其ノ旨被告ハ告知アリタルコト及各關係人ト共ニ取調ヲ受ケタルコトニヨリテ被告人ハ右米藏ニ對シ何等ノ債權ヲ有スルモノニアラサルコトヲ熟知スルニ至リタル旨ヲ判示セラレタリ然レトモ本件起訴事實カ第一第二共ニ被告人カ乾米藏ニ對シ金千圓ヲ融通シタル事ト基礎ノ上ニ立脚シ且第一起訴事實ニ付被告人カ告訴當時告訴ノ内容タル事實ノ虛偽ナルコトニ付證據有シ居リタリト認ムヘキ證據十分ナラサル以上被告人カ第二起訴事實タル右乾米藏ニ對シ千圓ノ債權アリトシ民事訴訟ヲ提起シ以テ其ノ黑白ヲ明ニセンコトヲ求ムルハ固ヨリ被告人ノ當然ノ權利ニシテ何等ノ當然ナルコトナラズ第二起訴事實ニ付テモ亦同様に推斷ヲ爲スヘキハ理ノ當然トスルコトコトナリ然リ而シテ原判決ハ此點ニ付被告

對スル欺罔調書中ノ供述記載及原審第三回公判調書中同人ノ供述記載並第一審第二回公判調書中證人森杉佐一郎ノ供述記載森杉佐一郎ニ對シ檢事ノ聽取書中ノ同人ノ供述記載ノ原判示ニハ孰レモ告訴事件ニ付テハ何等ノ一言半句ノ言及スルコトナク從テ不起訴ノ趣旨及ヒ被告人カ各關係人ト共ニ取調ヘテ受ケタル事實ハ遂ニ之ヲ知ルヘカラス況ンヤ原判決ノ認定ニヨリハ右各供述記載ニヨリテ未タ決定ニ第一起訴事實ニ付被告人カ告訴當時告訴ノ内容タル事實ノ虛偽ナリトシタルラ付證據有シタルヲ認ムヘキ證據十分ナラサルモノナリト認旨ノ下ニ(三)領置ニ係ル證據第五號(不起訴記載)ノ存在右原判示ノ如ク單ニ其ノ題目ヲ掲ケタルノミナラハ右證據ノ内容ヲ知ルニ由ナク其ノ說明ノ不適法ナルコトハ御院判例ノ存スルコトナリ從テ之ニヨリ本點所論ノ事實ヲ證明スルニ足ラス故ニ原判決採用ノ證據ニヨリテハ之ヲ綜合考慮スルモ原判決ノ認定ノ如ク被告人ニ於テ乾米藏ニ對シ何等ノ債權ヲ有スルモノニアラサルコトヲ熟知シタルトスル罪トナルヘキ事實ニ付原判決ハ證據ニヨリテ之ヲ認メタル理由ヲ附セサルカ又ハ證據ニ因ラスシテ犯罪事實ヲ認定シタル違法アルモノト認旨ハハカラス此點ニ於テ原判決ハ破毀ヲ免ラサルモノト信ス云云云云 【決定理由】 仍テ按スルニ原判決ハ被告人ハ株式會社產業貯蓄銀行丹波市支店長乾米藏ト被告トノ間ニ紛争ヲ來タシ同人ニ對シテ告訴ヲ提起シタルモノ右告訴事件ハ被告カ米藏ノ爲ニ金千圓ヲ融通シタル事蹟ナシト認旨ノ下ニ奈良區裁

判所檢察局ニ於テ不起訴處分ヲ爲リ其ノ旨被告ハ告知アリタルノミナラズ該告訴事件ニ付屢々各關係人ト共ニ取調ヲ受ケタル結果被告人ハ米藏ニ對シ何等ノ債權ヲ有スルモノニ非サルコトヲ熟知スルニ至リタル旨ヲ判示事實ハ原判決ニ由ナキヲ以テ原判決ハハ右事實ニ對シ證據說明ヲ缺カス違法アルモノト認旨ハハカラス而シテ此ノ違法ハ本件詐欺ノ事實ノ確定ニ影響ヲ及ヘスヘキモノト認旨ヲ以テ兩餘ノ論旨ニ對シテ說明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十條ニ依リ主文ノ如ク決定ス 昭和九年九月十三日 大審院第二刑事部、裁判長判事清水 孝 判事 江崎定太郎 判事 尾佐竹 猛 判事 織田 嘉七 判事 山内 撥一 昭和九年(九)第八三二號 本籍 奈良縣山邊郡丹波市町大字川原城四十五番屋敷 住居 同縣同郡同町大字九十六番地ノ二 農兼煙草小賣 楠 本 忠 次 (明治三十六年十月十九日) 右詐欺未遂被告事件ニ付昭和九年五月二十九日奈良地方裁判所ニ於テ言渡シタル

第二審判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シ本院ハ昭和九年九月十三日事實審理ヲ爲スヘキ旨決定シタルニ因リ更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ 【主文】 原判決ヲ破毀ス 被告人ハ無罪トス 【理由】 辯護人川島常三郎、横山鎮太郎島田正純上告趣意書第三點ノ論旨理由アルコトハ前掲當院判決ニ於テ説明スル如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ基キ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス 仍テ審按スルニ本件公訴事實ハ被告人ハ山邊郡丹波市町所在株式會社產業貯蓄銀行丹波市支店長乾米藏ノ爲ニ金千圓ヲ融通シタル事蹟ナシト認旨ノ下ニ昭和五年四月末日頃預金千圓ヲ拂戻ヲ受ケタル旨ヲ判示セラレタリ然レトモ本件起訴事實カ第一第二共ニ被告人カ乾米藏ニ對シ金千圓ヲ融通シタル事ト基礎ノ上ニ立脚シ且第一起訴事實ニ付被告人カ告訴當時告訴ノ内容タル事實ノ虛偽ナルコトニ付證據有シ居リタリト認ムヘキ證據十分ナラサル以上被告人カ第二起訴事實タル右乾米藏ニ對シ千圓ノ債權アリトシ民事訴訟ヲ提起シ以テ其ノ黑白ヲ明ニセンコトヲ求ムルハ固ヨリ被告人ノ當然ノ權利ニシテ何等ノ當然ナルコトナラズ第二起訴事實ニ付テモ亦同様に推斷ヲ爲スヘキハ理ノ當然トスルコトコトナリ然リ而シテ原判決ハ此點ニ付被告







刑事判例

▲證據ニ基カサル收賄金額ノ認定▲公立學校長ノ職務權限▲放火犯ト擬律錯誤

ル大庭開造ヨリ開造ノ息泰久ノ就職方殊ニ同中學校教諭トシテ採用ノ懇請ヲ受ケ其ノ頃前同所ニ於テ同人等ヨリ提供セ

第六、昭和八年一、二月頃同校五學年用教科書ノ販賣指定書籍店主田淵彌次郎ニ於テ翌年度分ニ付テハ他ノ學年用教科書ノ販賣指定ヲモ爲サレ度旨申出テ之ニ對シ從來四學年用以下全部ノ教科書ノ販賣指定書籍店ナル合資會社元野木書店代表社員タル原審相被告人元野木慎太郎ニ於テ從前通り爲サレ度旨懇請シ來リタルヲ以テ被告人ニ於テ從前通り爲シタルカ同年二月下旬頃前同所ニ於テ慎太郎ヨリ其ノ謝禮トシテ提供セル福岡市所在玉屋百貨店發行金額五十圓ノ商品券一枚ヲ其ノ情ヲ諒シテ之カ贈與ヲ受ケ

被告人半祐ハ判示期間判示中學校ノ校長トシテ在職シ所屬職員ノ任免ニ關シ縣知事ニ申シ來リタル事實並判示中學校ノ教科書ニ關シ其ノ販賣ヲ指定セラレタル書籍店カ判示第六ノ如ク二店アリタル事實ハ被告人ノ當廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ徴シ明白ナルノミナラス大正六年勅令第五號公立學校職員制第四條第三項ニ依リハ學校長ハ地方官ノ命ヲ受ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督スル旨規定セルカ故ニ所屬職員ノ任免ニ關シ知事ニ對シ之カ內申ヲ爲スヘキ權限ヲ有スルノミナラ

ス學校長カ擔任教諭ノ意見ヲ聽キ其ノ生徒用教科書ヲ特定發表スルコト並其ノ發表セル教科書ニ關シ學校當局及生徒ハ爲其ノ購買部數ヲ測ヘテ之ヲ書籍店ニ通知シテ取寄セシメ各生徒ヲシテ之ヲ購買セシムルハ規定ニ所屬校務ニ關スルモノト謂フヘク從テ右教諭ニ支障ナカランムル様取扱ヒ得ル適當ナル書籍店ヲ指定シ又ハ之ヲ變更スル等ノ事務ハ學校長ノ職務ト關係アルヲ以テ判示ノ如ク冒頭ノ事實ヲ認定ス(中略)

法律ニ照スニ被告人ノ行爲ハ刑法第百九十七條第一項前段第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ刑罰範圍內ニ於テ被告人ヲ懲役二年ニ處シ犯情輕キカ故ニ同法第二十五條ニ依リ一年間其ノ刑ヲ執行ヲ猶豫シ尙被告人ノ收受シタル判示ノ附賂ハ之ヲ液收スルコト能ハサルカ故ニ同法第百九十七條第二項ニ則リ其ノ價格合計金百八十五圓ハ之ヲ被告人ヨリ追徴シ訴訟費用中主文掲記ノ分ハ刑罰訴訟法第二百三十七條第一項第百三十八條ニ從ヒ被告人ノ原審相被告人等ヲシテ主文掲記ノ如ク負擔セシムルハキモノトス

而シテ被告人半祐ニ對シ本件豫審終結決定書記載ノ事實中當院カ認定シタル以外ノ事實ニ付テハ其ノ進行ノ證明ナキモ當院カ認定シタル分ト連續犯ノ關係アルモノトシテ起訴セラレ公判ニ付セラレタルモノトシテ其ノ分ニ付テハ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲ササルモノトス

檢事佐々木與次郎謹與  
昭和九年十一月十五日  
大審院第二刑事部、裁判長列事清水 孝藏  
列事 江崎定太郎 列事 尾住竹 猛  
列事 織田 嘉七 列事 山内 櫻一

放火犯ト擬律錯誤

昭和九年(九)第七四一號  
判決

本籍並住居 山梨縣中巨摩郡野之瀨  
村上市之瀨七百九十番地  
農 青 柳 安 定  
(明治二十二年十一月一日生)

右放火未遂被告事件ニ付昭和九年四月二十一日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人並原審辯護人菅野勘助ハ各上告ヲ爲シテ因テ當院ハ檢事櫻田忠美ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

トスル他ノ理由存スルモノナルコト明ナリ然ルニ原審判決判示ノ野之瀨村役場ハ執務終了後各吏員悉ク帰宅シ何人モ宿直スル者ナシ即チ此ノ點ニ關シ上田猛太郎ノ豫審調書中同人ノ證言トシテ問、夜役場建物内ニ宿直ハ居ナイノカ答、居リマセヌ直ク北手ノ小使室ノ建物ニ役場學校兼用ノ小使小松長重郎ト云フ者カ寢テ居ルノテアリマス(第二十二問答)ト供述記載アリ小松長重郎ハ原審證人トシテ問其ノ日戸締ハトウシタノカ答、消防ノ人達カ集マル前ニ全部閉戸ヲ締メテ外カラ私力鍵ヲカケマシタ(第十二問答)ト記載アリテ右役場建物内ニハ執務後吏員カ宿直トシテ起臥寢食スル事ナク執行時ニ於テモ亦何人モ現在シ居ラザリシコト明白ナリ然レトモ村役場ハ本條判示トコロノ現ニ人ノ住居スル建物ナリト御院判例存ス即チ村役場ハ役場吏員カ其ノ職務執行ノ爲現ニ住居スル用ニ供セラルル建物ナリトス(明治四十二年刑判決錄四〇二頁)ト謂フニアレトモ苟モ人ノ住居ニ使用セラレト云ハシニハ現ニ人ノ起臥寢食ノ場所トシテ之等ノ設備ヲ爲シ居リ日夜間斷斷ナク使用セララルル場合ノコトヲ云ヒ民法ニ所謂住居ト云ヘルト其ノ性質ヲ同ウスルモノニ外ナラスト思料ス此ノ點ニ關シ大場茂馬氏ハ住居トシテ使用スルトハ一定ノ人カ多少永續ノ意味ヲ以テ正則ニ寢食スルノ用ニ供スルコトヲ指稱ス(大場氏刑法各論下卷七三頁)トアリテ即チ住居トシテ生活ノ場所トシテ多少永續ノ起臥寢食シ居ルコトヲ必要トス判示役場ノ宿直室ハ東ニ接續スル土蔵ヲ距テ別棟ニ存スルモノニシテ假リ宿直

ト決意シ同日午後自宅ニ在リタル石油ヲ携ヘテ同役場ニ到リ其ノ建造物ノ一部タル便所ノ格子窓ニ該石油ヲ注キ莫ケ所携ノ燭守ヲ以テ之ニ點火シテ放火シタルモノ其ノ火力ハ漸ク右窓ノ數居鴨居等ノ一部ヲ炭化燼焦セシメタルニ止マリ未タ獨立燃焼ノ程度ニ至ラザルニ先チ秋山一郎等ノ發見消止ムルトコロトナリ該建造物燒燬ノ目的ヲ遂ケザリシモノナリ(證據略)

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第百九十七條第一項前段第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑罰範圍內ニ於テ被告人ヲ懲役二年六月ニ處スヘキ尙同法第二十一條ニ依リ第一審ニ於ケル未決勾留日數中百八日ヲ右本刑ニ算入スヘキ訴訟費用ニ付テハ刑罰訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

地方官商ノ放火ト事實

昭和九年(九)第三五〇號  
判決

本籍並住居 關西縣糸島郡原町大字加布里八百八十八番地ノ一  
吳服並肥料商 辻 和一郎  
(明治十五年五月十三日生)

右放火未遂被告事件ニ付昭和九年二月十日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判

刑事判例

▲放火犯ト擬律錯誤▲地方官商ノ放火ト事實ノ誤認

スルコトアリトスモ夜間ハ何人モ同建屋内ニ居住スルコトナシ加之右ト背反スル判例存ス即チ刑法第百八條ニ於テ規定スル放火罪ノ物體ノ一ナル所謂現ニ人ノ住居ニ使用スル建造物トハ放火行爲當時現ニ犯人以外ノ人ノ住居ノ用ニ供スルモノ即チ起臥寢食ノ場所トシテ日常使用セル建造物ニシテ云々(大正十四年刑判決錄六一頁)トアリテ全テ前掲判例ト其ノ趣旨ヲ異ニスルモノニシテ從テ右判例ハ改メラルヘキモノナリト思料ス要スルニ原審判決ハ本件ニ付刑法第百八條ヲ適用シタルハ失當ナリト云フニ在リ

昭和九年(九)第七四一號  
判決  
本籍並住居 山梨縣中巨摩郡野之瀨  
村上市之瀨七百九十番地  
農 青 柳 安 定  
(明治二十二年十一月一日生)

右放火未遂被告事件ニ付昭和九年四月二十一日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人並原審辯護人菅野勘助ハ各上告ヲ爲シ同年八月六日本院ニ於テ刑罰訴訟法第四百四十三條ニ依リ決定ヲ爲シ

タルニ因リ同法第四百四十四條ニ從ヒ審理ヲ遂ケタルトコロ上告ノ理由アルコト右決定ニ說示スル如クナルヲ以テ同法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ原判決ヲ破毀シテ更ニ判決スルコト左ノ如シ

昭和九年八月六日  
大審院第一刑事部、裁判長列事泉二 新熊  
列事 三宅正太郎 列事 植月 愛明  
列事 稻田 龍 列事 梶田 年

本籍並住居 關西縣糸島郡原町大字加布里八百八十八番地ノ一  
吳服並肥料商 辻 和一郎  
(明治十五年五月十三日生)

ト決意シ同日午後自宅ニ在リタル石油ヲ携ヘテ同役場ニ到リ其ノ建造物ノ一部タル便所ノ格子窓ニ該石油ヲ注キ莫ケ所携ノ燭守ヲ以テ之ニ點火シテ放火シタルモノ其ノ火力ハ漸ク右窓ノ數居鴨居等ノ一部ヲ炭化燼焦セシメタルニ止マリ未タ獨立燃焼ノ程度ニ至ラザルニ先チ秋山一郎等ノ發見消止ムルトコロトナリ該建造物燒燬ノ目的ヲ遂ケザリシモノナリ(證據略)

昭和九年十一月二十二日  
大審院第一刑事部、裁判長列事泉二 新熊  
列事 遠藤 誠 列事 植月 愛明  
列事 稻田 龍 列事 梶田 年

本籍並住居 關西縣糸島郡原町大字加布里八百八十八番地ノ一  
吳服並肥料商 辻 和一郎  
(明治十五年五月十三日生)

【主文】 被告人上告趣意書原裁判所ニ於テ私カ肥料代支拂ニ窮シ保險金詐取ノ目的ヲ以テ先チ私自身ヲ自分方ニ放火シ更ニ女中鶴島ハル子ヲ殺害シテ放火セシメタル旨認定セラレタルハ全ク無根ノ事實ナルニ付之ヲ取消シ更ニ無罪ノ判決ヲ受ケ度候第一點原判決ハ私カ肥料代支拂ニ窮シ保險金詐取ノ目的ニテ放火ヲシタル旨認定セラレタルモ當時肥料代金ハ何時タリトモ支拂ニ窮セザル文クノ金カアリマスノテ放火ノ大罪ヲ犯スノ必要ハ毫末モアリマセン其ノ證據ハ(イ)私カ肥料取引先タル九十商會ノ大豆粕代金三千八百餘圓ヲ支拂期日ヨリ三、四日支拂ヲ遅延シマシタカ夫レハ當時烈シキ神經痛ニ悩マレ集金不如意ナリシト關岡市ノ銀行カ三日間休業シタノカ原因テアリマス(ロ)私ハ佐賀中央銀行前原支店ニ對シ株券擔保ニテ五千圓ノ貸越契約ヲ締結シテ居リマシタカ內金三千一百圓ヲ借入レテ居リマシタノテ尙一千九百圓ハ何時タリトモ引出ス事カ出來得ル狀態ニアリマシタ(ハ)昭和八年四月末ニ於テ加布里信用購買販賣利用組合ニ對シ肥料ノ賣掛代金カ二千六百餘圓程アリマシテ何時タリトモ回収ノ可能ナル事ハ組合長關富陳平氏ノ證言ニ據ルモ明白テアリマス又右同様四月末ニ於テ長糸信用購買販賣利用組合ニ對シ肥料賣掛代金カ一千九百餘圓アリマシテ是モ何時ニテモ請求シ得ル金テアリマス事ハ組合理事友岡久氏ノ證

昭和九年(九)第三五〇號  
判決  
本籍並住居 關西縣糸島郡原町大字加布里八百八十八番地ノ一  
吳服並肥料商 辻 和一郎  
(明治十五年五月十三日生)



刑事判例

地方官商ノ放火ト事實ノ誤認

言ノ通りテアリマス其ノ他深江村ノ各大字ノ實行組合ニ對シ合計一千餘圓ノ肥料...

テモ即屋ハ喜ンテ應シマス(リ)假ニ金融カ逼迫シテ居レハ家屋敷地ヲ擔保トシテ...

サ(モ)通ツタ事ハアリマセンハル子ノ寢室ハ私共夫婦ノ寢室ノ隣ニテ襖障子カ...

其ノ儘ニナツテ居リマス荒牧政志モ男ノ面目ニ關スルト云フテ其ノ後ハル子方...

刑事判例

地方官商ノ放火ト事實ノ誤認

タ爲其レヲ自分ノ事ノ如ク出鱈目ヲ申立テ...

ノ餘リ云々ト言ヒ或ハソソナ事ハ恐ロシク...

ヒラレタナラハ十里行ケト云フ言葉ヤ私ノ...

第三點原判決ハ五月一日午前十時ノ發火ヲ...



表店ノ間火鉢ノ側ニ座ツテ母ト妻ヒテト共ニ居テ家事ハ家族ノモノカ證言シテ居ルノミナラス其ノ時恰モ買物ニ來合セタル成吉ハナト云フ人カ私カ店ヨリ動力カサリシ事ハ實地檢證ノ時辯護人三名判事三名檢事一名ノ前ニテ立派ニ證言シテ居ラスニ拘ラスカカル事實ハ全ク御取上ケテシテ實際ニ於テ事實不可能ナル私ノ行為ト認定セラレタル事ハ如何ニモ残念デアリマス(三)晝ノ十時ニ北ノ隅ニ位スル薪倉庫ノ片隅ニ放火シタトテ保險契約ノ住宅ニ延燒スル事ハ絕對ニアリ得ナイノデアリマス火災ノ危險ヲ慮ツテ本宅ト縁ノ遠イ建物ヲ薪倉庫トシテアリマス住宅ハ防火ノ爲土蔵造リテアリマス假ニ薪倉庫カ燃エ上ツタトシテモ住宅ニ延燒セザル事ハ何人モ信スル處デアリマス而モ白蟻風モナキ日ニ放火シテ未遂ニ終ルト云フ事ハ分リ切ツタ事デアリマス今假ニ家ヲ燒クトスルナラ住宅ニ階ニ提灯ヲ置キ忘レテモ完全ニ内部カラナラ燒ケマスカ外部カラハ土蔵壁デアリマスカラ決シテ火ハ移リマセンノミナラス放火場ヲ置テ此ノ隅テ壁一重隣ノ他人ノ住宅ニ草葺キ屋根デアリマスカラ火災トナレハ此ノ他人ノ家カ眞先ニ延燒シタ事ト思ヒマス(四)放火マテシテ保險金ヲ詐取セネハナラズト云フ何等ノ原因モ動機モ事實存在セヌノデアリマス(五)私トシテ此ノ住宅ハ假令首カ飛ンテモ燒棄アル事ノ出來ナイ大切ナ家デアリマス先々代カ破産シテ家政整理ヲナシ一時他人ノ所有ニ歸シテ居ツタノヲ養父四十歳カ濱地氏ヨリ交換ト云フヨリ寧ろ贈與セラレタル家屋デアリマスカラ先年裏庭

ニ其ノ恩義ヲ忘レヌ爲且ハ子孫ニ對スル教訓ノ爲再興記念碑ヲ建設シテ居リマス(養父四十歳ト相談ノ上)碑文ノ寫時正ニ明治九年數代隆盛ノ當家モ天運ノ然ラシムル處カ家運衰頹途ニ破産ノ止ムヲ得サルニ至リ寸地ノ殘ルナク住ニ家ナキノ悲運ニ陥ル此ノ時ニ當リ惟葉善次氏當家ノ境遇ニ同情セラレ債主ニ請ヒ向土蔵一棟ヲ賣受ケ家族ヲ住居セシム而シテ明治二十三年ニ至リ濱地市右衛門氏ノ懇切ナル盡力ニ依リ元油屋本宅ト交換シ本宅ニ轉住ス尙商業上其ノ他高般濱地氏ノ援助ヲ受ケル事舉テ數フヘカラス當店ノ今日アルハ則チ兩氏ノ高恩ニシテ得意諸氏ノ同情ト相持テ然ラシメタルナリ吾子々孫々決シテ是ヲ忘却スヘカラス能ク本文ノ經歷ヲ胸裏ニ刻ミ家名ヲ尊重セン事ヲ子孫ニ傳フ昭和四年九月二日達之(六)前記各項ニ依リ述ヘタルカ如ク全ク私ニ關係ナイコトハ御認メノ事ト信シマス平氣テ虛偽ノ申立アル位ノ女テスカラハル子ノ所爲タル事ト認ムルヨリ致シ方ナイト存シマス尙五月二日朝ノ放火ハ勿論ハル子自身デアルト申シテ居リマスカラ前行爲ト認ムルノデアリマス(七)四月二十六日二十七日兩日當區ニ於テ防火宣傳ノ活動眞實カ公開セラレタル兩夜共女中ハル子ハ家振ト共ニ見物ニ行キマツタカ其ノ當時月經中デアツタ山由或ハ發作的ニ放火スル様ナ氣分ニナツタノハナイカト思ヒマス女ノ月經時ニハ色々氣分カ變ル事カ多クイ話ヲ聞テ居リマス(八)五月一日ノ放火カ餘リ不思議デアリマスカラ私共家族ノ者カ懸命ニナツテ其ノ原因

ヲ調ヘテ居リマシタカハル子ハ其ノ場所ニ寄付カナイノミナラス其ノ場所ヲ顔ヲ上ケテ見ル事サハ出來得ナイ様シタカ後ニハ隅ノ方テシタシタテ居リマシタノテ母トミカハ是ニ氣付キ養父四十歳ニ向ヒハル子カ泣イテ居ルカ何ノ爲ニ泣クノテアルカ泣イテ居ルカ養父四十歳ハハル子カ泣クノハ放火場ハ自身ノ受持テ場所テアルカ責任感念ニ打タレテ泣クノ心中心ニハ私共カ不思議々々ト騒イテ居ルノニ對シ自身ニ放火シタノテアルカラ途ニ良心ニ責メラレテ泣イテ居タノハナイカト思ヒマス(九)發火場所薪倉庫ハ外部ヨリ容易ニ他人ノ侵入サレヌ場所テ其ノ當時ハル子以外ニハ何人モ居ラサリシ時テシタカラハル子ノ所爲ト認ムルヨリ外致シ方カナクデアリマスハル子カ洗濯ヲ終リ薪倉庫北隅ノ棚ニアツタ新聞包ノ折箱ニ點火シテ物干場ニ洗濯物ヲ干スヘク持運ヒタル後養父四十歳カ火ヲ發見シタ時間ハ折箱ノ燒ケ工合ニヨリ見テ(辯護人ノ實驗濟)五、六分間ニシテ發見シタ事ナリマス(十)女中ハル子ニ放火ヲ強ユレハ直ニ發覺スル位ノ事ハ分ツテ居リマス殊ニハル子ノ自宅ハ近隣デアリ實母ニテモ打明ケル憂モアルノハル子ノ動作ニ留意スルノハ當然デアリマスカ私ハ寸毫モ氣ニカケル事モナク普通ノ通りニシテ居リマシタハル子モ亦放火ノ恐ルヘキ事位ハ知ツテ居タニ違ヒマセンカラ眞ニ頼マレタトスレハ直ニ自宅ニ馳セ歸リ母ニ訴ヘル位ノ事ハアルヘキ事ト思ヒマス(十一)五月二日ノ火事後ニ大阪アルカリ肥料會社ノ森島氏カ來

店セラレタノテ發見ノ押合アリテ肥料ノ買付ヲナシ其ノ後ハ火事見舞ノ來客ニ忙殺サレマシタ若シ私カ眞犯人デアラナラハ五月一日ヨリ二日午後迄火災見舞客ノ應接中肥料會社ノ出張員ト肥料ノ買付ノ値段ノ押合ヒ等平常ノ通り出來得ルモノデアリマセン又特ニ特筆スヘキハ私ノ實父濱池和次郎カ四月二十一日ニ病死シテ死後僅カ二十日位ノ時テ涙未タ乾カサル時期ニ於テ如何ニシテ放火ノ大罪ヲ犯ス様ナ氣持ニナラレマスカ尙前日ニ於テ自身ニ放火シ翌日女中ニ依頼シテ放火ヲナスト云フ殆ント兒戲ニ類スル行爲ハ私ノ到底敢行スヘキモノデアリマセン私ニ放火ノ意思アリタリトスレハ人手ヲ煩ハサス燒燬シ易キ内部ニ放火スルハ當然デアリマス(十二)私ハ虛偽ハ大罪ト心得テ居ルノデアリマス私ノ肥料ノ賣買ハ凡テ先物ノ賣買デアリマスカラ賣込ヲ致シマスニモ相場カ下落シツツアル時ハ決シテ賣ツタ事ハナイノテ又騰貴スル時ハ早ク買付ヲ勤メマス斯クテ長年月虛偽ヲ言ハス客本位ヲ信條トシテ來マシタノテ只今テハ肥料ノ註文モ單ニ其ノ名稱ト數量トヲ通知シテ買入レ契約ノ一任セラレ居ル狀態デアリマスノテ私カ虛偽ヲ言ハナイ結果斯ク信用ヲ受ケテ居リマス尙ハナイ親交アル人々ハ一人トシテ私ノ言動ヲ信セザルモノハナイノテ然ルニ只一面會シテ檢事サンハ私ヲ始メカラ嘘付キト斷定サレマシタ私カ眞實ノ申立ヲ致シマスト其ノ方ハ嘘ツキト云ハレ點ケモセ火ヲ放ケマシタ頼ミモセヌ事ヲ頼ンタト虚偽ノ申立ヲスレハ其方ハ眞人間ニナツタト賞メラレマシタ眞ニ人間ト

云フモノハ當テニナラズ事ヲ深ク感シマシタ神佛ヲ相手ニスルヨリ外何物モナイ事ヲ深ク感シマシタ檢事サンカ私ヲ嘘ツキト斷定セラレタ事カ少クモ保ノ方ハ私ヲ嘘ツキトシテ取扱ハレタ様ニ考ヘマスト云ヒ

第四點其ノ筋ノ取調ニ對シ満足スル事カ出來マセン其ノ理由ハ(甲)私ハ女中ハル子カ出鱈目ノ申立ヲナシ普通テナイト思ヒマシタカラ警察テモ檢事豫審共ハル子ノ精神鑑定ヲ願ヒマシタカ一回モ採用セラレナカツタノハ遺憾ナリマセヌ(乙)女中ハル子カ虛偽ノ申立ヲナシテ居ル證人トシテ荒牧政志ヲ取調ヘテ下サル様願出テマシタカ採用セラレナカツタノデアリマス(丙)第一實地檢證ノ際女中ハル子カ五月一日ノ放火ハ自身デアルト云ウテ始メ電ノ燃焼リノ薪ヲ持チ行キタルモ途中テ消エタカラマツテ以テ放火シタト實地ニ行ヒ示シ居ルヲ目撃シタ人モアリシニ聞キマスカ其ノ事ハ一切調査ニ記載シテナイノテ全ク不可解ナリマセン五月一日ノ放火ヲハル子トスレハ私カハル子ニ頼ンタト云フノカ五月一日ノ午後五時ト夜中トノ事デアルカラ私ヲ罪人トスルコトカ出來ナイ事ニナルカラ調査ヨリ除カレタルモノト思ヒマス(丁)ハル子ノ出鱈目ハ荒牧政志トノ關係云々テモ明白デアリマスカ放火ニ關係カナイカラト云ウテ御取上ケカナク同日同シハル子ノ口ヨリ出タ私ニ關シタ事ハ取上ケニナツタノデアリマス(戊)尙私一身上ニ關係アル他人ノ取調ヲ周圍家屋ノ取調等全クナカツタ事カ残念デアリマス要スルニ第一回ノ放火カ女中ハル子ノ所爲ト認ム

ルニ時間ニ於テカツチリ符合シ私共カ原因調査ニ懸命ニナツテ居ルニ拘ラス其ノ場所ニハ近寄り得ズ顔ヲ上ケテ得サル程良心ノ苛責ニ苦シミ泣テ居タノ月經時ニ於ケル活動眞實ニ刺戟セラレ發作的ニ何等ノ思慮ナク放火ヲ敢テシタ事ト思ヒマス然ルニ不合理ニ自然ニ私ノ行為ト認定セラレタルハ残念極リナキ事デアリカト私ハ天ヲ仰キ地ニ伏シ一點恥テ居ルカナイノデアリマス正義人道ノ爲公明正大ノ御裁斷ヲ仰キ度イ一念カラ事件ノ真相御取調ヲ只管御願致シマスカ次第デアリマスト云フニ在リ

【決定理由】 記録ヲ在スルニ原判決ニ重大ナル事實ハ誤認アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アルヲ認ム論旨ハ其ノ理由アリ仍チ刑事訴訟法第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和九年五月十九日  
大審院第三刑事部、裁判長長尾重雄、清雄、日高要次郎、判事、草野約一郎、判事、齋藤三郎、判事、日下部義夫

昭和九年(レ)第三五〇號  
判 決  
本籍並住居 福岡縣糸島郡前原町大字加布里八百八十八番地ノ一  
吳服並肥料商 辻 和 一郎  
(明治十五年五月十三日生)

右放火未遂同被控被告事件ニ付昭和九年二月十日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告人ハ上告ヲ爲シ當院ハ同年五月十九日事實審理ヲ爲スヘキ旨決定シタリ仍チ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ハ之ヲ破毀ス

被告人和 一郎ハ無罪

【理由】 被告人上告論旨理由アルコトハ前掲當院ノ決定ニ於テ説明スルカ如クナラシテ以テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同第四百四十八條ニ則リ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス

仍チ審按スルニ本件公訴事實ハ被告辻和 一郎ハ吳服雜貨並肥料商ニシテ福岡縣糸島郡前原町大字加布里八百八十八番地ノ一所在ノ養父辻四十歳所有ニ係ル木造瓦葺放火事倉庫ノ接續シ居レル木造瓦葺二階建住宅ニ家族ト共ニ居住シテ右營業ニ從事シ來リ昭和七年九月二十二日日本火災保險株式會社ト右住宅及之ニ收容ノ吳服等ノ商品並家具類一式ニ付保險金額一萬圓保險料一ヶ年三十五圓保險期間一ヶ年ノ約ニテ火災保險契約ヲ締結シ居リタルコト近時營業漸時不振ナリ昭和八年四月二十一日頃下ノ關市肥料商丸十商會ヨリ買入レタル肥料大豆粕二千枚代金三千八百餘圓ノ手形金ノ支拂及其ノ後着荷スヘキ大豆粕三千枚代金約六千圓弱ノ調金ノ必要ニ迫ラレ居リタルモ金策意ノ如クナラサルニ依リ右住宅ニ放火シテ前示保險物件ヲ燒燬シ以テ保險金ヲ得ムコトヲ企テ

第一、昭和八年五月一日午前十時頃前示放火事倉庫ノ上ニ在リタル象印燭寸ヲ携ヘ該放火事場北側ニ接續セル薪入倉庫ノ階下棚ニ積重ネ在リタル燭寸ノ折箱ヲ包ミタル包紙ニ點火シテ該家屋ニ放火シ因テ折箱燭寸ヲ燒燬シタルトモ直ニ發見消止メラレタル爲メ被告人家族ノ現ニ住居ニ使用セル右住宅ヲ燒燬スルニ至ラス

第二、右第一掲記ノ如ク放火ノ目的ヲ達ケザリシ爲再ヒ右住宅ニ放火シテ前掲保險物件ヲ燒燬セムコトヲ決意シ被告人方雇入ノ女中鍋島春子ヲ教唆シテ放火ノ實行ヲ爲サシメムコトヲ企テ同日午後五時三十分頃右住宅前通り東側肥料入倉庫二階コンクリートノ物干場ニ於テ同女中ニ對シ燭寸ニテ前示薪入倉庫二階ニ積重ネ在リタル薪束ニ點火シテ右住宅ヲ燒燬セハ多額ノ保險金ノ交付ヲ受ケヘキ故テテカ供與スヘシトノ旨告ケタルモ同女中カ默シテ答ヘザリシ爲更ニ翌二日午前一時頃被告入方ノ同女中寢室ニ於テ同女中ニ對シ前同様放火ヲ爲シ吳服等ノ積重ニ因テ同女中シテ承諾ノ上右指定シタル場所ニ放火ヲ爲スヘキ決意ヲ爲サシメ以テ右住宅ニ放火ヲ教唆シ鍋島春子ヲシテ右教唆ニ基キ前掲住宅ニ放火セムコトヲ決意シ翌二日午前七時頃同家放火事場北側ノ風呂場ニ在リタル象印ノ燭寸ヲ携ヘ前示薪入倉庫ノ二階ニ上リ其ノ西北側ニ置キ在リタル松葉ノ附着セル松小枝ノ薪束ニ燭寸ニテ點火シテ該家屋ニ放火シ因テ右住宅ニ接續シタル同倉庫ノ一部タル屋根裏垂木數本梁柱及背板十數枚等ノ一部ヲ燒燬シタルモノナリト云フニ在レトモ其ノ犯罪ノ證明十分ナラサルヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第四百七條第三百六十條ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

昭和九年十一月二十四日  
大審院第三刑事部、裁判長長尾重雄、清雄、日高要次郎、判事、草野約一郎、判事、齋藤三郎、判事、日下部義夫

(六九)







刑事判例

傷害致死に正當防衛を主張する森林竊盜に罰金量定ノ標準

(七二)

見ハシキセト云フト上野ハ何ニ業ヲ前...

カ一度見テ來ルト申シ西村同伴藤田病院...

旨ノ決定ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第四...

シ之ヲ認メ得ヘキモノトス然レハ被告...

右森林竊盜被告事件ニ付昭和九年七月...

テ之ヲ包括的ニ觀察シ一罪トシテ處罰ス...

盜ノ罰金量定ノ標準ヲ定ムルニ付卷ノ關...

右ノ理由ナラバ以テ爾餘ノ論旨ニ對スル...

刑事判例

森林竊盜に罰金量定ノ標準ニ上級審ニ於ケル罰金ノ輕減ト罰金刑ニ對スル勞務留置ノ言渡

(七三)

右森林竊盜被告事件ニ付昭和九年七月...

テ之ヲ包括的ニ觀察シ一罪トシテ處罰ス...

盜ノ罰金量定ノ標準ヲ定ムルニ付卷ノ關...

右ノ理由ナラバ以テ爾餘ノ論旨ニ對スル...



刑事判例

▲森林竊盜上罰金量定ノ標準▲上級審ニ於ケル罰金ノ輕減ト罰金刑ニ對スル勞務場留置ノ言渡

(七四)

【理由】辯護人坂本哲夫上告趣意書第四點ノ理由アルコトハ昭和九年十一月七日當院ノ爲シタル決定ニ於テ說示スルカ如クナルヲ以テ更ニ當院ニ於テ審理ヲ遂クスルニ

被告人忠吉ハ昭和八年十一月頃其ノ長男緒方忠藏ト共同シテ森田初治所有ニ係ル熊本縣羽池郡龍門村大字龍門字大野七百六十八番山林ニ於ケル價格金十圓相當ノ樺立木ヲ盜伐シ該伐採木ヲ以テ木炭(價格金三十圓餘)ヲ製造シタルモノナリ

百五十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事 堀町四郎  
昭和九年十二月十二日  
大審院第三刑部、裁判長 長野野一郎  
判事 日高要太郎 判事 草野野一郎  
判事 齋藤 三郎 判事 日下部義夫  
●小商人ノ店員ノ横領ト其ノ  
犯情  
昭和九年(レ)第一、二〇九號  
決定  
本籍並住居 和歌山縣有田郡鳥屋城  
村大字小川千七百七十四番地  
中垣寬二郎 店員  
中垣 種三郎

昭和九年(レ)第一、二〇九號  
決定  
本籍並住居 和歌山縣有田郡鳥屋城  
村大字小川千七百七十四番地  
中垣寬二郎 店員  
中垣 種三郎

年十二月三十一日支拂フヘク實兄ト連帶シテ借用證書ヲ差入居リシカ尙且心ニ染マサリヨリ内心ニ慮セシモ何分ニモ未決囚トシテ勾禁セラレ居ル身ノ如何トモスルコトヲ得サリシカ今因保釋ノ思典ニ浴シタルヲ以テ百方知已ヲ頼リテ其ノ衷情ヲ訴ヘタル所四圍皆之ニ同情シ遂ニ本年九月二十日金千六十圓圓ヲ罰金スルコトヲ得タルヲ以テ直チニ之ヲ賠償金トシテ主人池本ニ提供シテ支拂ニ充テタリ之ニヨリ主人池本カ被告人ノ爲ニ加ヘラレタル實害ハ完全ニ賠償シ得ラレタルコトナレリ然リ而シテ主人池本ニ於テハ被告人ノ犯行ニ對シテハ當初ヨリ被告人ノ平素ノ勤儉振興忠實振作ニ感心シ受撫シ居リタルト被告人ノ業績日ニ舉リ居タル折柄トテ之ヲ内濟シ將來引續キ雇傭シテ業務ヲ努メシメントスル心堅カリシ爲メ當初ヨリ刑事問題トナリテ被告人ニ刑責ヲ科スルコトヲ欲セズ卑口寬大ナル處置ヲ希望シ居ルモノナリ五、以上要約スルニ被告人ハ前科ナク性温良ニシテ勤勉克己主人ニ仕ヘテ業務ヲ勵ミ居リシモ家計不如意其ノ他ノ爲メ本件犯行ヲ爲スニ至リシモ被害者カ當初ヨリ處罰ヲ希望セズ卑口寬大ナル處置ヲ求メテ引續キ雇傭シテ業務ヲ從事セシメントシ現モ保釋出所ノ今日店員トシテ使用シ居ルモノニシテ被罰金額ハ全部完済了ラセリ今日僅少金額積蓄ノ一事ニ因リ直チニ實刑ヲ科シ年餘少壯ノ被告人ノ將來ヲ墮リ去ルコトハ不憐ノ至リナリト依テ執行猶豫ノ恩典ニ浴セシメタルト上告ニ及ヒタル次第ナリ追テ被害金全部完済ノ受領證據添付致シ置候ト云ヒ

【理由】辯護人細谷馨上告趣意書原判決ハ被告人ニ對シテ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルコトヲ示ス即チ「理由」ニ於テ「被告人ハ、前科ナク、性温良ニシテ勤勉克己主人ニ仕ヘテ業務ヲ勵ミ居リシモ家計不如意其ノ他ノ爲メ本件犯行ヲ爲スニ至リシモ被害者カ當初ヨリ處罰ヲ希望セズ卑口寬大ナル處置ヲ求メテ引續キ雇傭シテ業務ヲ從事セシメントシ現モ保釋出所ノ今日店員トシテ使用シ居ルモノニシテ被罰金額ハ全部完済了ラセリ今日僅少金額積蓄ノ一事ニ因リ直チニ實刑ヲ科シ年餘少壯ノ被告人ノ將來ヲ墮リ去ルコトハ不憐ノ至リナリト依テ執行猶豫ノ恩典ニ浴セシメタルト上告ニ及ヒタル次第ナリ追テ被害金全部完済ノ受領證據添付致シ置候ト云ヒ

【理由】辯護人細谷馨上告趣意書原判決ハ被告人ニ對シテ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルコトヲ示ス即チ「理由」ニ於テ「被告人ハ、前科ナク、性温良ニシテ勤勉克己主人ニ仕ヘテ業務ヲ勵ミ居リシモ家計不如意其ノ他ノ爲メ本件犯行ヲ爲スニ至リシモ被害者カ當初ヨリ處罰ヲ希望セズ卑口寬大ナル處置ヲ求メテ引續キ雇傭シテ業務ヲ從事セシメントシ現モ保釋出所ノ今日店員トシテ使用シ居ルモノニシテ被罰金額ハ全部完済了ラセリ今日僅少金額積蓄ノ一事ニ因リ直チニ實刑ヲ科シ年餘少壯ノ被告人ノ將來ヲ墮リ去ルコトハ不憐ノ至リナリト依テ執行猶豫ノ恩典ニ浴セシメタルト上告ニ及ヒタル次第ナリ追テ被害金全部完済ノ受領證據添付致シ置候ト云ヒ

【理由】辯護人細谷馨上告趣意書原判決ハ被告人ニ對シテ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルコトヲ示ス即チ「理由」ニ於テ「被告人ハ、前科ナク、性温良ニシテ勤勉克己主人ニ仕ヘテ業務ヲ勵ミ居リシモ家計不如意其ノ他ノ爲メ本件犯行ヲ爲スニ至リシモ被害者カ當初ヨリ處罰ヲ希望セズ卑口寬大ナル處置ヲ求メテ引續キ雇傭シテ業務ヲ從事セシメントシ現モ保釋出所ノ今日店員トシテ使用シ居ルモノニシテ被罰金額ハ全部完済了ラセリ今日僅少金額積蓄ノ一事ニ因リ直チニ實刑ヲ科シ年餘少壯ノ被告人ノ將來ヲ墮リ去ルコトハ不憐ノ至リナリト依テ執行猶豫ノ恩典ニ浴セシメタルト上告ニ及ヒタル次第ナリ追テ被害金全部完済ノ受領證據添付致シ置候ト云ヒ

【理由】辯護人細谷馨上告趣意書原判決ハ被告人ニ對シテ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルコトヲ示ス即チ「理由」ニ於テ「被告人ハ、前科ナク、性温良ニシテ勤勉克己主人ニ仕ヘテ業務ヲ勵ミ居リシモ家計不如意其ノ他ノ爲メ本件犯行ヲ爲スニ至リシモ被害者カ當初ヨリ處罰ヲ希望セズ卑口寬大ナル處置ヲ求メテ引續キ雇傭シテ業務ヲ從事セシメントシ現モ保釋出所ノ今日店員トシテ使用シ居ルモノニシテ被罰金額ハ全部完済了ラセリ今日僅少金額積蓄ノ一事ニ因リ直チニ實刑ヲ科シ年餘少壯ノ被告人ノ將來ヲ墮リ去ルコトハ不憐ノ至リナリト依テ執行猶豫ノ恩典ニ浴セシメタルト上告ニ及ヒタル次第ナリ追テ被害金全部完済ノ受領證據添付致シ置候ト云ヒ

刑事判例

▲小商人ノ店員ノ横領ト其ノ犯情

(七五)

辯護人伊藤陽介上告趣意書第一點原判決ハ後點論述ノ如キ違法アリテ破毀ヲ免レタルモノナリ然ラズトスルモノ原判決ニハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルコトヲ示ス即チ「理由」ニ於テ「被告人ハ、前科ナク、性温良ニシテ勤勉克己主人ニ仕ヘテ業務ヲ勵ミ居リシモ家計不如意其ノ他ノ爲メ本件犯行ヲ爲スニ至リシモ被害者カ當初ヨリ處罰ヲ希望セズ卑口寬大ナル處置ヲ求メテ引續キ雇傭シテ業務ヲ從事セシメントシ現モ保釋出所ノ今日店員トシテ使用シ居ルモノニシテ被罰金額ハ全部完済了ラセリ今日僅少金額積蓄ノ一事ニ因リ直チニ實刑ヲ科シ年餘少壯ノ被告人ノ將來ヲ墮リ去ルコトハ不憐ノ至リナリト依テ執行猶豫ノ恩典ニ浴セシメタルト上告ニ及ヒタル次第ナリ追テ被害金全部完済ノ受領證據添付致シ置候ト云ヒ

【理由】辯護人細谷馨上告趣意書原判決ハ被告人ニ對シテ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルコトヲ示ス即チ「理由」ニ於テ「被告人ハ、前科ナク、性温良ニシテ勤勉克己主人ニ仕ヘテ業務ヲ勵ミ居リシモ家計不如意其ノ他ノ爲メ本件犯行ヲ爲スニ至リシモ被害者カ當初ヨリ處罰ヲ希望セズ卑口寬大ナル處置ヲ求メテ引續キ雇傭シテ業務ヲ從事セシメントシ現モ保釋出所ノ今日店員トシテ使用シ居ルモノニシテ被罰金額ハ全部完済了ラセリ今日僅少金額積蓄ノ一事ニ因リ直チニ實刑ヲ科シ年餘少壯ノ被告人ノ將來ヲ墮リ去ルコトハ不憐ノ至リナリト依テ執行猶豫ノ恩典ニ浴セシメタルト上告ニ及ヒタル次第ナリ追テ被害金全部完済ノ受領證據添付致シ置候ト云ヒ

【理由】辯護人細谷馨上告趣意書原判決ハ被告人ニ對シテ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルコトヲ示ス即チ「理由」ニ於テ「被告人ハ、前科ナク、性温良ニシテ勤勉克己主人ニ仕ヘテ業務ヲ勵ミ居リシモ家計不如意其ノ他ノ爲メ本件犯行ヲ爲スニ至リシモ被害者カ當初ヨリ處罰ヲ希望セズ卑口寬大ナル處置ヲ求メテ引續キ雇傭シテ業務ヲ從事セシメントシ現モ保釋出所ノ今日店員トシテ使用シ居ルモノニシテ被罰金額ハ全部完済了ラセリ今日僅少金額積蓄ノ一事ニ因リ直チニ實刑ヲ科シ年餘少壯ノ被告人ノ將來ヲ墮リ去ルコトハ不憐ノ至リナリト依テ執行猶豫ノ恩典ニ浴セシメタルト上告ニ及ヒタル次第ナリ追テ被害金全部完済ノ受領證據添付致シ置候ト云ヒ

【理由】辯護人細谷馨上告趣意書原判決ハ被告人ニ對シテ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルコトヲ示ス即チ「理由」ニ於テ「被告人ハ、前科ナク、性温良ニシテ勤勉克己主人ニ仕ヘテ業務ヲ勵ミ居リシモ家計不如意其ノ他ノ爲メ本件犯行ヲ爲スニ至リシモ被害者カ當初ヨリ處罰ヲ希望セズ卑口寬大ナル處置ヲ求メテ引續キ雇傭シテ業務ヲ從事セシメントシ現モ保釋出所ノ今日店員トシテ使用シ居ルモノニシテ被罰金額ハ全部完済了ラセリ今日僅少金額積蓄ノ一事ニ因リ直チニ實刑ヲ科シ年餘少壯ノ被告人ノ將來ヲ墮リ去ルコトハ不憐ノ至リナリト依テ執行猶豫ノ恩典ニ浴セシメタルト上告ニ及ヒタル次第ナリ追テ被害金全部完済ノ受領證據添付致シ置候ト云ヒ







刑事判例

▲僅少ナル金圓ノ選舉違反ト量刑▲不良中學生ノ放火ト事實ノ誤認

大審院第二刑事部、裁判長列事江崎定次郎、判事 草野豹一郎、判事 織田 嘉七、判事 齋藤 三郎、判事 山内 登一、昭和九年九月十一日、第一二二二號

本籍並住居 海田市船尾七百四番地、石炭商久米吉事、山下 条 吉、(明治三十四年五月十五日生)

右市會議員選舉期、被告事件ニ付昭和九年八月十一日和歌山地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シテ因テ判決スルコト左ノ如シ

【主文】

原告人乘吉ヲ罰金二百圓ニ處ス、右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ一日金四圓ノ割合ヲ以テ被告ノ勞務場ニ留置ス

第一審ニ於ケル未決勾留日數中二十日ヲ前項ノ割合ヲ以テ本刑ニ算入ス

【理由】辯護人山口貞昌、赤井幸夫上告趣意書第四點ノ論旨ノ理由アルコト昭和九年十一月八日本院ノ言渡シタル決定ニ於テ説示スル如クナルカ故ニ刑事訴訟法第四百四十四條ニ則リ更ニ被告事件ニ付審理スルニ被告乘吉ハ昭和九年五月十五日施行セラレタル和歌山縣海田市會議員選舉ニ際シ其ノ候補ニ立テ同日八日午後其ノ届出ヲ爲シタルトコロ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ選舉運動者ナル坂口政吉、組野徳三郎ノ言ヲ容レ同人等ト共謀ノ上意思繼續シテ

第一、同日頃同市船尾二百四十七番地ナル原審相被告人松谷甚三郎方ニ於テ選舉運動者ナル同人並ニ田中秀助、神野

芳太郎、田中安吉、内芝芳次郎、町田太郎ニ對スル選舉運動ノ報酬ト爲ス趣旨ニテ金百圓ヲ甚三郎ニ交付シ甚三郎ヲシテ其ノ趣旨ニ從ヒ之ヲ右六名ニ分別交付セシメテ之カ供與ヲ爲シ

第二、同日頃選舉運動者ナル同市黒江六百二十番地高松新造方ニ於テ同人ニ對スル選舉運動ノ報酬ト爲ス趣旨ニテ同人ノ妻ヲ介シ金二十圓ヲ右新造ニ供與シタルモノナリ

(證據略)

法律ニ照スニ被告ノ所爲ハ刑法第六十條市制第四十條衆議院議員選舉法第六十二條第一號刑法第五十五條ニ該當スルコト判示ノ如キ程度ノ金員ヲ選舉運動者ニ報酬シテ供與シタルモノハシテ選舉人ヲ買収シタルモノニ非サルカ故ニ罰金刑ヲ選擇スルヲ相當トシ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告ノ罰金二百圓ニ處シ尙刑法第十八條ニ則リ右罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル勞務場留置日數ハ一日金四圓ノ割合ヲ以テ之ヲ定メ又同法第二十一條ニ依リ第一審ニ於ケル未決勾留日數中二十日ヲ同様ノ割合ヲ以テ之ヲ本刑ニ算入スヘキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事 柴田文雄、昭和九年十二月二十日、大審院第二刑事部、裁判長列事江崎定次郎、判事 草野豹一郎、判事 織田 嘉七、判事 山内 登一

●不良中學生ノ放火ト事實ノ誤認

昭和九年九月十一日、〇九八號、本籍 福井縣吉田郡五領ケ島村上合、月第三十二號十八番地、住居 福井市費永下町百二十九番地、福井縣立福井中學校生徒、河原 辰 成、(大正四年二月四日生)

右放火被告事件ニ付昭和九年七月十二日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ原告人ノ法定代理人河原直七原審辯護人大橋菊、相澤準人ハ上告ヲ爲シテ因テ決定スルコト左ノ如シ

【主文】

被告乘吉ヲ罰金二百圓ニ處ス、右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ一日金四圓ノ割合ヲ以テ被告ノ勞務場ニ留置ス

第一審ニ於ケル未決勾留日數中二十日ヲ前項ノ割合ヲ以テ本刑ニ算入ス

【理由】辯護人大橋菊上告趣意書第一點、原判決ハ「被告ノ裁判示ノ日時判示決定ノ下ニ福井中學校々舎ニ判示ノ手段方法ヲ以テ放火シテ因テ判示建築物ヲ燒燬シタル點」(一)被告ノ對スル(二)同第三回豫審調書(三)證人本保次作ニ對スル豫審調書(四)強制處分ニ於ケル豫審判事ノ檢證調書ヲ綜合考査シテ之ヲ認定スルニ足ルヲ以テ判示事實ハ其ノ證明アルモノトス」ト犯罪事實ヲ認定セリ

右認定ノ資料ヲ檢スルニ(一)ニヨリテ前示犯罪取行ノ跡ヲ(二)ニヨリテ放火スル際ニ校舍ニ宿直ノ先生ハ全校舎ニ火カ移リ燃ルコトノ認識(三)ニヨリテ出火ノ時間及場所(四)ニヨリテ校舍ノ燒失シタル部分ヲ夫々認定セルコト其ノ摘要援用セル部分ニヨリテ明白ナル處依是看之(イ)本犯罪ヲ被告人カ決意シタル時期及場所(ロ)放火ノ場所及方法ニ關スル認定ノ直接資料ハ右(一)ノミニ

依レルコトヲ窺フニ足ル三、右(一)ハ前掲ノ如ク被告人ニ對スル第一回ノ豫審調書ナル處被告人ハ豫審庭ニ於テ放火ノ事實ヲ自白シ其ノ自白セル處極メテ詳細ニシテ聊モ漏ラズ處ナシ然レトモ豫審庭ニ於ケル自白カ公判庭(第一審並第二審共)ニ於ケル陳述即チ放火ヲナシタル事實ナシト供述ニ反スル場合猶其ノ效力ヲ有スルハ右自白カ他ノ證據ト吻合スル場合ニ限ラルヘク自白カ他ノ公判庭又ハ豫審庭ニ表ハレタル證據ト全ク齟齬スル場合ニ其ノ效力ヲ有セサルヤ言フ俟タサル處ナリ然ルニ本件豫審第一回調書ノ自白ハ左ノ如キ重大ナル諸點ニ於テ他ノ證據ト齟齬セリ四、即チ(イ)其ノ前段ニ於テ「私ハ昭和八年六月十八日午後十時半頃自轉車ニ乗りたるまや前ヨリ城町ニ在ル福井中學校ノ正門ト福井圖書館ト間ノ道路ヲ費永下町ノ自宅ニ歸ル爲メ福井前濠端ノ同中學校ノ裏門ニ差支リタル際裏門ノ扉カ五分位開キ居レラ自轉車ノ明ニ見付ケタルカ當日ハ私カ元在學シタル金澤一中カ教習商業科ノ對抗野球試合ニ負ケ自分ノ好きな高桑常子ト一緒ニ歩カウト誘ヒタルカ應セサル夏梅壽子ト訪ネタルモ留守アリ而シテ夏梅壽子ト訪ネタル處當時私ハ福井中學校ノ裏門ノ開キ居ルヲ見テ不圖同中學校舎ニ火ヲ放シ燒キ遣フウトイフ氣ニナリ裏門ノ濠端ノ櫻ノ木ニ自轉車ヲ立掛ケトアリ之ヲ要約スレハ被告ハ平素學校ノ先生ニ對シ不平ヲ抱キテリタル處偶六月十八日氣分ヲ害スル面白カラサルコトノミアリ中學校裏門ヲ通過セル際裏門カ偶然五分許開キアル

ナリ居リ板張りノ方ニ近キ所ノ壁ノ上ニアル壁ノ積古着掛ニ七、八着以上カト思ハルル乘道着道着カ掛ケアリタリ」ト供述アリテ武導師範室ニ入りタル際ノ模様及其ノ内部ノ模様ヲ明ニセリ然レトモ(キ)被告人ニ對シ第一審昭和八年十月十日福井地方裁判所公判調書中證人本保次作ノ調書ノ直前證人磨井和平ノ調書ニ接シテ次ノ如キ記載アリ「檢事ハ裁判長ノ許可ヲ得テ在庭セル證人竹内靜ニ對シ問、證人カ先刻中立テテ調書部ノ電燈ノ高サ板仕切ノ高サハ間違ナイカ答、電燈ニハ手ヲ延セハ届キマシタ板仕切ノ高サハ私ノ思ヒ違ヒテシタ其ノ板仕切若干板カ張ツテアツタト思ヒマシ間、スルト電燈ト板仕切ノ高サハトウナツタ居タカ答、同高サト思ツテ居リマシ調書部ノ電燈ノ明テ武導師範室カ明ルイト云フコトハ現ニ私カ中ニ這入ツテ見タコトカアルノテ之ハ間違ヒアリマセス」右調書並豫審庭ニ於ケル昭和八年七月二十日證人五十嵐鐵藏ニ對スル調書「三、六月十八日夜福井中學校火災當日學校ニ居マシカ答、當日私ハ午後六時頃學校ニ行キ宿直ヲ致シマシタ四、火災ノアツタ前後ノ模様ヲ述ヘテミナサイ答、私ハ午後八時頃小使室ヲ出テ控場ノ西側ヲ通り調書部ノ南東隅ノ入口カラ調書部ニ這入り調書部ト武導師範室ノ間ニ在ル板仕切ノ北方廊下ニ接スル方ノ出入口カラ武導師範室内ヲ覗イテ見マシタ處武導師範室内ノ南方硝子戸カ凡ソ中央邊カト思ヒマシ一枚開イテアルノカ見エマシタ以下中略

一、一問、證人カ調書部ニ這入ツタ時電燈ハ點イテ居リマシタカ答、電燈カ點イテ居マシタハ燭カ十燭ノ電燈カ武導師範室ト板仕切リノ東方二尺許リノ南北カラ云ヘハ中央邊リノ床上方位ノ個所ニ點イテ居マシタ二、二問、武導師範室ノ明ルサハ答、私カ武導師範室ヲ覗イタ時ハ薄暗クアリマシタ三、兩證言ヲ對照スレハ十八日夜ノ武導師範室ノ明暗ノ程度ヲ推測スルニ難カラス「室内ハ暗キ故私ハ持チ居リタル電燈ノ火ヲ點ケシカ」ト被告ハ供述スレトモ右電燈トハ自轉車用ノ蓄電池ニヨリ押収ニカカル證第五號類似ノモノナルヲ以テ此ノ電燈ヲ點クルモ十分ノ光ヲ得ルコト困難ニシテ却ツテ武導師範室自體カ調書部ノ電燈ノ明ニヨリ右電燈ヲ使用スルヲ要セサル程度ニ明カリシコト前陳ノ如クナレハ此ノ點被告ノ自供ニ矛盾アルモノナリ尙此ノ點ニ付五十嵐小使カ巡迴セルハ八時前後ナル處其ノ後十時五十分頃ニテモ電燈ニ異狀ナカリシコトニ付原審昭和九年四月十一日檢證現場ニ於ケル證人松村政次郎ノ證言調書中左記問答ニヨリ明ナリ「問、同日證人ハ會社ノ宿直テアツタノテ一番先ニ其ノ火災現場ナル福井中學校ニ駆付ケタトコトニナルカ左様カ答、左様デアリマシ間、夫シテ證人ハ何處ノ電燈ヲ消シタカ答、私カ中學校ニ駆付ケタラ學校ノ正門ノ入口ノ電燈カ付イテ居リマシタノテ之ハ危險テアルト思ヒオソソ所ニアル中學校入ノ配電線ヲ切ツタノテアリマシ間、其ノ證人カ切ツタ電線ハ何ボルトノモノカ答、夫レハ百ボルトノ夜間線デアリマシ(二)假ニ被告人ノ供述ノ如ク

刑事判例

▲不良中學生ノ放火ト事實ノ誤認

昭和九年九月十一日、〇九八號、本籍 福井縣吉田郡五領ケ島村上合、月第三十二號十八番地、住居 福井市費永下町百二十九番地、福井縣立福井中學校生徒、河原 辰 成、(大正四年二月四日生)

右放火被告事件ニ付昭和九年七月十二日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ原告人ノ法定代理人河原直七原審辯護人大橋菊、相澤準人ハ上告ヲ爲シテ因テ決定スルコト左ノ如シ

【主文】被告乘吉ヲ罰金二百圓ニ處ス、右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ一日金四圓ノ割合ヲ以テ被告ノ勞務場ニ留置ス

第一審ニ於ケル未決勾留日數中二十日ヲ前項ノ割合ヲ以テ本刑ニ算入ス

【理由】辯護人大橋菊上告趣意書第一點、原判決ハ「被告ノ裁判示ノ日時判示決定ノ下ニ福井中學校々舎ニ判示ノ手段方法ヲ以テ放火シテ因テ判示建築物ヲ燒燬シタル點」(一)被告ノ對スル(二)同第三回豫審調書(三)證人本保次作ニ對スル豫審調書(四)強制處分ニ於ケル豫審判事ノ檢證調書ヲ綜合考査シテ之ヲ認定スルニ足ルヲ以テ判示事實ハ其ノ證明アルモノトス」ト犯罪事實ヲ認定セリ

右認定ノ資料ヲ檢スルニ(一)ニヨリテ前示犯罪取行ノ跡ヲ(二)ニヨリテ放火スル際ニ校舍ニ宿直ノ先生ハ全校舎ニ火カ移リ燃ルコトノ認識(三)ニヨリテ出火ノ時間及場所(四)ニヨリテ校舍ノ燒失シタル部分ヲ夫々認定セルコト其ノ摘要援用セル部分ニヨリテ明白ナル處依是看之(イ)本犯罪ヲ被告人カ決意シタル時期及場所(ロ)放火ノ場所及方法ニ關スル認定ノ直接資料ハ右(一)ノミニ







刑事判例

不良中學生ノ放火ト事實ノ誤認△自動自轉車運轉手ノ注意義務

【決定理由】因テ記録ヲ精査スルニ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト認め得ヘキヲ以テ本論旨ハ何レモ其ノ理由アリ因テ爾餘ノ論旨ニ對シテ說明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和九年十月二十三日  
大審院第四刑事部、裁判長判事野野三郎  
判事 中尾 芳助 判事 沼 義雄  
判事 赤羽 照 判事 岸 達也

本籍 福井縣吉田郡五領ケ島村上合  
月第三十二號十八番地  
住居 福井市實永下町百二十九番地  
福井縣立福井中學校生徒  
河原 辰成

(大正四年二月四日生)

右放火被告事件ニ付昭和九年七月十二日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告及被被告人ノ法定代理人父河原直七原審辯護人大橋新、相澤準人ハ上告ヲ爲シ當院ハ事實審理ノ決定ヲ爲シタルニ因リ更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 原判決ヲ破毀ス

被告人辰成ハ無罪

【理由】 辯護人大橋新上告趣意書第一點辯護人阿保淺次郎上告趣意書辯護人相澤準人、六厘了、小西平吉上告趣意書第一點辯護人大橋新追加上告趣意書第三點辯護人相澤準人、六厘了、小西平吉追加上告趣意書第四點乃至第七點ノ論旨理由由

右教諭等ノ恨ミ且關係教師及同僚ノ自己ニ對スル態度餘リ冷淡ナリト爲シ元在校シタル金澤第一中學校ヲ退校セテ現ニ五年生トシテ教育ヲ受ケル福井中學校ニ對シ快カラザル感情ヲ懷キ居タル折柄昭和八年六月十八日ノ教習商業學校ニ於テ同校野球部ト金澤第一中學校野球部トノ野球試合ニ元母校ノ應援ニ赴キタルモ同野球部散北シタルヨリ勢カラス落膽シタリ刻歸宅シタル上同日午後十時半頃愛人トテタルモ一ハ拒マレハ不在ニシテ其ノ目的ヲ果シ得ズ滿タサレザル胸ヲ懷イテ歸途ニ就キ福井中學校裏手ニ差掛ルヤ偶々同校裏門ノ五寸許リ開キ居ルヲ發見シ恰モ附近ニ人影ナキニ乘シ此ノ機ヲ逸セテ宿直教諭等ノ現在セル同校校舍ヲ燒燬シ前示教諭等ニ對スル怨恨ト日頃ノ鬱憤トヲ露サムト決意シ同夜午後十時五十分頃自轉車ヲ裏門外ニ乗テ裏門ヨリ校内ニ入り博物室ノ西側ヲ通り北校舍武道館前庭ヲ等燃焼シ易キ物ノ數多存在セル同室内ニ侵入シ所携ノ燭ヲ以テ其ノ壁ニ掛ケアリタル積古着ノ裾ニ火ヲ放ケ翌十日午前一時頃頃同校寄宿員小使等ノ現在セル校舍五棟及附屬建物十棟ヲ全部燒燬シタルモノナリト云フニ在レトモ之ヲ認ムヘキ證明ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第四百七條第三百六十二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 辯護人中筋義一上告趣意書第三點ハ原審判決ニ前略右利権カ該道ノ北側方ヲ橫斷セムトスルニ及ヒ始メテ急停車ヲ出置テ採リタルモ及ハス右自動自轉車

刑事判例

自動自轉車運轉手ノ注意義務

【決定理由】 因テ記録ヲ精査スルニ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト認め得ヘキヲ以テ本論旨ハ何レモ其ノ理由アリ因テ爾餘ノ論旨ニ對シテ說明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十三條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

【主文】 原判決ヲ破毀ス

【理由】 辯護人中筋義一上告趣意書第三點ノ論旨理由由アルコト昭和九年九月十日本院ノ言渡シタル決定ニ於テ說示スル如クナラザルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十四條ニ則リ更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

【主文】 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

【理由】 辯護人中筋義一上告趣意書第三點ハ原審判決ニ前略右利権カ該道ノ北側方ヲ橫斷セムトスルニ及ヒ始メテ急停車ヲ出置テ採リタルモ及ハス右自動自轉車



自動車運轉手ノ注意義務及被害者ノ執拗ナル暴行ニ對スル傷害ト正當防衛

本籍並住居 秋田縣河邊郡和田村 井三十七番地

農業 鈴木 鐵治郎

〔理由〕 被告事件ニ付昭和九年四月十七日秋田地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢事櫻岡丈四郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

〔主文〕 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

〔理由〕 辯護人大浦千代見上告趣意書原判決ニ依レハ「田近榮太郎ニ喧嘩ヲ挑マシメテ同ノ組伏セテ拳ニテ數回同ノ頭部ヲ毆打シ因テ同ノ傷害ヲ與ヘタリ」トシテ上告人ヲ傷害罪ニ問擬シタルモ右ノ重大ナル事實ノ誤認アルモノト史料何者上告人ハ田近榮太郎ト取組合トナリタルハ喧嘩ニアラスシテ田近榮太郎ヨリ仕掛ケラレタル暴行ヲ極力避ケ居リタルニ最モ免器ヲ以テ追害ヲ加ヘントシタルニヨリ之ヲ防衛スルカメ不得已取組合ヲ爲ササルヲ得サルニ至リタルモノニシテ其ノ間ニ田近榮太郎ニ傷害ヲ生ジタリトスルモ開ハ上告人カ正當防衛ノ結果ニシテ上告人ニ責任ナシ是ヲ證據ニ付テ觀ルニ長谷部銀助取書(一)ニヨレハ「處カ田近カ黙ツテ通行止ノ所砂利ヲ毆シテ通ルトハ生意氣ヲ吐ク鳴リ付ケタ處鈴木ハ自轉車カ下リテ御免シテ吳レト謝リマシタカ田近ハ尙貴様目頃カ生意氣ヲトト言ツテ居リマシタ其ノ時二人ノ間ハ二、三間離レテ居リマシタ鈴木ハ自轉車下リテ二、三步田近ニ近ツキ何カ云ツテ居ル様シタカ何ト云フツカカ覺エテ居リマセヌ」トアリテ上告人カ

右傷害被告事件ニ付昭和九年四月十七日秋田地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢事櫻岡丈四郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

〔主文〕 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

〔理由〕 辯護人大浦千代見上告趣意書原判決ニ依レハ「田近榮太郎ニ喧嘩ヲ挑マシメテ同ノ組伏セテ拳ニテ數回同ノ頭部ヲ毆打シ因テ同ノ傷害ヲ與ヘタリ」トシテ上告人ヲ傷害罪ニ問擬シタルモ右ノ重大ナル事實ノ誤認アルモノト史料何者上告人ハ田近榮太郎ト取組合トナリタルハ喧嘩ニアラスシテ田近榮太郎ヨリ仕掛ケラレタル暴行ヲ極力避ケ居リタルニ最モ免器ヲ以テ追害ヲ加ヘントシタルニヨリ之ヲ防衛スルカメ不得已取組合ヲ爲ササルヲ得サルニ至リタルモノニシテ其ノ間ニ田近榮太郎ニ傷害ヲ生ジタリトスルモ開ハ上告人カ正當防衛ノ結果ニシテ上告人ニ責任ナシ是ヲ證據ニ付テ觀ルニ長谷部銀助取書(一)ニヨレハ「處カ田近カ黙ツテ通行止ノ所砂利ヲ毆シテ通ルトハ生意氣ヲ吐ク鳴リ付ケタ處鈴木ハ自轉車カ下リテ御免シテ吳レト謝リマシタカ田近ハ尙貴様目頃カ生意氣ヲトト言ツテ居リマシタ其ノ時二人ノ間ハ二、三間離レテ居リマシタ鈴木ハ自轉車下リテ二、三步田近ニ近ツキ何カ云ツテ居ル様シタカ何ト云フツカカ覺エテ居リマセヌ」トアリテ上告人カ

右傷害被告事件ニ付昭和九年四月十七日秋田地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢事櫻岡丈四郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

〔主文〕 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

〔理由〕 辯護人大浦千代見上告趣意書原判決ニ依レハ「田近榮太郎ニ喧嘩ヲ挑マシメテ同ノ組伏セテ拳ニテ數回同ノ頭部ヲ毆打シ因テ同ノ傷害ヲ與ヘタリ」トシテ上告人ヲ傷害罪ニ問擬シタルモ右ノ重大ナル事實ノ誤認アルモノト史料何者上告人ハ田近榮太郎ト取組合トナリタルハ喧嘩ニアラスシテ田近榮太郎ヨリ仕掛ケラレタル暴行ヲ極力避ケ居リタルニ最モ免器ヲ以テ追害ヲ加ヘントシタルニヨリ之ヲ防衛スルカメ不得已取組合ヲ爲ササルヲ得サルニ至リタルモノニシテ其ノ間ニ田近榮太郎ニ傷害ヲ生ジタリトスルモ開ハ上告人カ正當防衛ノ結果ニシテ上告人ニ責任ナシ是ヲ證據ニ付テ觀ルニ長谷部銀助取書(一)ニヨレハ「處カ田近カ黙ツテ通行止ノ所砂利ヲ毆シテ通ルトハ生意氣ヲ吐ク鳴リ付ケタ處鈴木ハ自轉車カ下リテ御免シテ吳レト謝リマシタカ田近ハ尙貴様目頃カ生意氣ヲトト言ツテ居リマシタ其ノ時二人ノ間ハ二、三間離レテ居リマシタ鈴木ハ自轉車下リテ二、三步田近ニ近ツキ何カ云ツテ居ル様シタカ何ト云フツカカ覺エテ居リマセヌ」トアリテ上告人カ

道邊通行ノ際田近ノ爲強ヒテ文句ヲ附ケラレタルモ上告人ハ「御免」シテ吳レト謝リタル事實ハ何等抵抗ノ意思ナク又其ノ態度トシテモ頗ル從順ナリシコトヲモ想像スルニ餘リアリ然ルニ田近ハ之ニ飽キ足ラズシテ尙暴言ヲ吐キナカラ上告人ニ追及シ來リタル關係モ亦明瞭ナリ而シテ佐々木重吉ノ同職取書(二)ニヨレハ「昨年十一月末頃田近ノ記憶シマスカ私ハ縣道修繕工事ニ勤イテ居リマシタ丁度晝前ニナツタノテ名古屋徳治ト二人テ各々スコップ(シヤベ)唐紙等ヲ持ツテ大都會事務所カラ二、三町上ノ下諸井ノ仕事場ニ引上ケテ大都會事務所ニ行ク途申向方カラ一人ハ道路一人ハ自轉車ヲ押シテ田ノ中ヲ此方ハ歩いて來ルカ見エマシタ何カ話シテ來テ居ル様シタカ六、七十間程ニ近付イタ時ニハ初メ二人カ口論シテ居ル様シタリマシタ尙後側面マテ行ツタ時ニ判ツタノテスカ縣道ニ來タノハ田近田ノ中ヲ來タノハ鈴木トシタ田近ハ其ノ歩ミ振リカラ見テ酒ニ酔フテ居ル様シタ我々カ十五、六間カ二十間位ニ近付イタ時鈴木モ縣道ニ上リマシタカ其ノ時田近ハ自轉車ヲ持ツテ居ル鈴木ノ後カラ飛ヒ付イタ様シタ尙田近ハ其ノ前カラ何カ金物ヲ持ツテ振リ上ケテ居タノヲ見マシタカ夫レテ鈴木打ツタ處ハ一度モ見ナイ様テ二人カ接合シタ處鈴木ハ自轉車ヲ投ケテ後カラ駆付イタ田近ヲ投ケ飛ハシタ様シタ見エマシタカ二人ハ離レヌニ其ノ儘田ノ中ニ轉ツテ採ミ合ツテ居リマシタカ大體鈴木カ上ニナツテ居タ様テ我々ハ二人カ接合シタノヲ見タノテ急キ足テ現場ニ行キ先ツ田近ノ持

ツテ居ル金具ヲモキ取リ二人ヲ引離シタ鈴木ヲ先ニ逃ケト逃カシマシタカ田近ハ立上ツテカラ尙モ我々ノ持ツテ來タスコップヲ唐紙ヲ代ルテ取ツテ鈴木ニ持掛ラウトスルノテ二人テ止メ鈴木ヲ走逃ケタ上名古屋サンハ自轉車ヲ長谷部茂助方ニ預ケニ行キ私ハ二人分ノ道具ヲ持ツテ事務所ノ方ニ引上ケマシタ田近ハ其ノ後付ウシタカ知リマセヌカ暫ク其處ニ立ツテ居タ様テ田近ノ頭カラハ血カ出テ居リマシタ田近ノ持ツテ居タ金具ト云フノハ幅二寸長サ七、八寸テ穴カ一ツ開イテ居タ様ニ思ヒマス場所ハ長谷部茂助方カラ三、四十間離レテ居タ様ニ思ヒマス尙鈴木カ田近カラ後カラ引付カレタ様ニ見エタ際來テテラト云フ意味ノ事ヲ呼ビマシタ側ニ行ツテカラモ田近カ離サナイノテ逃ケラレナイト云フ意味ノ事ヲ言ツテ居ツタ様ニ思ヒマス鈴木カ上ニナツテ居マシタカ田近ヲ毆ツタ處ヲ見タ記憶ハアリマセヌ」トアリテ上告人カ田近ノ近寄ルヲ避ケ自轉車ヨリ下リ田近ヨリ自轉車ヲ押シナカラ通行シ來リタル田近ハ道路ヲ通テ文句ヲ云ヒナカラ追ヒ驅ケ來リ田浦ヨリ道路ニ上ラサレハ通行出來サル處ニ到リ道路ニ上ラントシタルニ田近ハ後方ヨリ上告人ニ飛駕リ上告人ヲ毆打シタルモ上告人ハ之ニサレ抵抗セザリシカ振返テ田近ヲ見レハ同ノ人ハ手ニ免器(當時上告人ハ之ヲ山刀ト見タリ)ヲ振リ上ケ居リタルヲ見テ驚キノ餘リ之ヲ挽取ラントシテ遂ニ組合トナリタルモノニシテ其ノ事情ハ右供述ニヨリ定メ明瞭ナリ然レモ其ノ際上告人ノ心情ヲ語ルモノトシテ誰カ來テ吳レト叫ビシ事實モアリ又佐々木

右治安維持法違反被告事件ニ付昭和九年三月十四日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ本院ハ檢事櫻岡丈四郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

〔主文〕 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

〔理由〕 被告上告趣意書昭和四年所謂四、一六事件ノ際治安維持法違反事件ニ連座仕リ同年五月四日東京毎日新聞社前ニテ逮捕サレ同年六月二十二日近洲崎警察署ニ拘留サレ警視廳ノ木内警部殿ノ御調ヘテ受ケ豊多摩刑務所(後ニ市ヶ谷刑務所)小菅刑務所ニ移シテ市ヶ谷刑務所ニ移サレ「收監サレ秋山豫審判事殿ノ手ヲ經テ東京地方裁判所官裁判長殿(平田、戸澤檢事殿御立會)御係リニテ公判ニ付サレ一昨年十月懲役十年未決拘留留二百五十日通算ノ御判決ヲ受ケタルモ一昨年六月共同被告佐野學、鍋島貞親等ノ所謂「轉向」聲明ヲ率先支持シ爾來過去ノ誤謬ヲ確認シテ清算シテ努力メタルコトヲ控訴院ニ於テ認メラレタルカ故ニ御座候サレト此ノ御判決ハ組織的犯罪等ニ本事件ノ性質ニ鑑ミ共同被告中ノ或者等ニ比シテ刑ノ量定カ頗ル不均衡ニシテ不當ト信シ上告シタルモノニ有之候例ヘハ共同被

重吉等カ駆ケ付ケ來リタル後ニ於テモ田近カ離サナイテ逃ケラレナイト云ヒタル事實モアリ原審判決ノ如ク上告人カ田近ニ挑マラレタル喧嘩ニ對シ之ヲ買ツテ出テタル行動ト見ルヤ否ヤハ常識アルモノノノ斷ク判斷シ得ヘキ事項ナリト史料然ルニ原審ハ斯ル證據ノ觀察ヲ爲スコトナク得然田近ニ傷害アリシ一事ヲ以テ上告人カ行使シタル正當防衛ノ權利ヲ犯罪視シタル不法アルモノナリ一般人カ上告人ト同一ノ立場ニ於テ右田近ノ如キ不法進撃ニ對シ之ニ忍從スヘキ義務アリトノ法則アラサル限リハ之ヲ防衛スル爲ニ必要ナル行為ヲ爲シ得ヘキハ當然ナリ然ルニ原審ハ前叙ノ如キ經過ニ於テ上告人カ田近ノ暴行ニ忍從セザルヘカラサル如キ立場ニ於テ上告人ノ責任ヲ認メタルモノト云フモ過言ニアラサル事實ニ對シ上告人ヲ有罪ト認メタルハ重大ナル事實ノ誤認アルモノトシテ被毀スヘキモノト史料スト云フニ在リ

〔決定理由〕 仍テ記録ヲ調査スルニ原判決ニハ所謂如ク事實誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト認ム本論旨ハ理由アリ

仍テ刑罰訴訟法第四百四十三條第四十條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和九年七月七日

大審院第三刑事部、裁判長列事重吉 清雄  
判事 日高要次郎 判事 草野約一郎  
判事 齋藤 三郎 判事 日下部義夫

本籍並住居 秋田縣河邊郡和田村 井三十七番地

右傷害被告事件ニ付昭和九年四月十七日秋田地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢事櫻岡丈四郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

〔主文〕 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

〔理由〕 被告事件ニ付昭和九年四月十七日秋田地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢事櫻岡丈四郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

〔主文〕 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

〔理由〕 辯護人大浦千代見上告趣意書原判決ニ依レハ「田近榮太郎ニ喧嘩ヲ挑マシメテ同ノ組伏セテ拳ニテ數回同ノ頭部ヲ毆打シ因テ同ノ傷害ヲ與ヘタリ」トシテ上告人ヲ傷害罪ニ問擬シタルモ右ノ重大ナル事實ノ誤認アルモノト史料何者上告人ハ田近榮太郎ト取組合トナリタルハ喧嘩ニアラスシテ田近榮太郎ヨリ仕掛ケラレタル暴行ヲ極力避ケ居リタルニ最モ免器ヲ以テ追害ヲ加ヘントシタルニヨリ之ヲ防衛スルカメ不得已取組合ヲ爲ササルヲ得サルニ至リタルモノニシテ其ノ間ニ田近榮太郎ニ傷害ヲ生ジタリトスルモ開ハ上告人カ正當防衛ノ結果ニシテ上告人ニ責任ナシ是ヲ證據ニ付テ觀ルニ長谷部銀助取書(一)ニヨレハ「處カ田近カ黙ツテ通行止ノ所砂利ヲ毆シテ通ルトハ生意氣ヲ吐ク鳴リ付ケタ處鈴木ハ自轉車カ下リテ御免シテ吳レト謝リマシタカ田近ハ尙貴様目頃カ生意氣ヲトト言ツテ居リマシタ其ノ時二人ノ間ハ二、三間離レテ居リマシタ鈴木ハ自轉車下リテ二、三步田近ニ近ツキ何カ云ツテ居ル様シタカ何ト云フツカカ覺エテ居リマセヌ」トアリテ上告人カ

右傷害被告事件ニ付昭和九年四月十七日秋田地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢事櫻岡丈四郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

〔主文〕 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

〔理由〕 辯護人大浦千代見上告趣意書原判決ニ依レハ「田近榮太郎ニ喧嘩ヲ挑マシメテ同ノ組伏セテ拳ニテ數回同ノ頭部ヲ毆打シ因テ同ノ傷害ヲ與ヘタリ」トシテ上告人ヲ傷害罪ニ問擬シタルモ右ノ重大ナル事實ノ誤認アルモノト史料何者上告人ハ田近榮太郎ト取組合トナリタルハ喧嘩ニアラスシテ田近榮太郎ヨリ仕掛ケラレタル暴行ヲ極力避ケ居リタルニ最モ免器ヲ以テ追害ヲ加ヘントシタルニヨリ之ヲ防衛スルカメ不得已取組合ヲ爲ササルヲ得サルニ至リタルモノニシテ其ノ間ニ田近榮太郎ニ傷害ヲ生ジタリトスルモ開ハ上告人カ正當防衛ノ結果ニシテ上告人ニ責任ナシ是ヲ證據ニ付テ觀ルニ長谷部銀助取書(一)ニヨレハ「處カ田近カ黙ツテ通行止ノ所砂利ヲ毆シテ通ルトハ生意氣ヲ吐ク鳴リ付ケタ處鈴木ハ自轉車カ下リテ御免シテ吳レト謝リマシタカ田近ハ尙貴様目頃カ生意氣ヲトト言ツテ居リマシタ其ノ時二人ノ間ハ二、三間離レテ居リマシタ鈴木ハ自轉車下リテ二、三步田近ニ近ツキ何カ云ツテ居ル様シタカ何ト云フツカカ覺エテ居リマセヌ」トアリテ上告人カ

右傷害被告事件ニ付昭和九年四月十七日秋田地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢事櫻岡丈四郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

〔主文〕 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

〔理由〕 辯護人大浦千代見上告趣意書原判決ニ依レハ「田近榮太郎ニ喧嘩ヲ挑マシメテ同ノ組伏セテ拳ニテ數回同ノ頭部ヲ毆打シ因テ同ノ傷害ヲ與ヘタリ」トシテ上告人ヲ傷害罪ニ問擬シタルモ右ノ重大ナル事實ノ誤認アルモノト史料何者上告人ハ田近榮太郎ト取組合トナリタルハ喧嘩ニアラスシテ田近榮太郎ヨリ仕掛ケラレタル暴行ヲ極力避ケ居リタルニ最モ免器ヲ以テ追害ヲ加ヘントシタルニヨリ之ヲ防衛スルカメ不得已取組合ヲ爲ササルヲ得サルニ至リタルモノニシテ其ノ間ニ田近榮太郎ニ傷害ヲ生ジタリトスルモ開ハ上告人カ正當防衛ノ結果ニシテ上告人ニ責任ナシ是ヲ證據ニ付テ觀ルニ長谷部銀助取書(一)ニヨレハ「處カ田近カ黙ツテ通行止ノ所砂利ヲ毆シテ通ルトハ生意氣ヲ吐ク鳴リ付ケタ處鈴木ハ自轉車カ下リテ御免シテ吳レト謝リマシタカ田近ハ尙貴様目頃カ生意氣ヲトト言ツテ居リマシタ其ノ時二人ノ間ハ二、三間離レテ居リマシタ鈴木ハ自轉車下リテ二、三步田近ニ近ツキ何カ云ツテ居ル様シタカ何ト云フツカカ覺エテ居リマセヌ」トアリテ上告人カ

右傷害被告事件ニ付昭和九年四月十七日秋田地方裁判所ニ於テ言渡シタル第二審判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ檢事櫻岡丈四郎ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

〔主文〕 本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

〔理由〕 被告上告趣意書昭和四年所謂四、一六事件ノ際治安維持法違反事件ニ連座仕リ同年五月四日東京毎日新聞社前ニテ逮捕サレ同年六月二十二日近洲崎警察署ニ拘留サレ警視廳ノ木内警部殿ノ御調ヘテ受ケ豊多摩刑務所(後ニ市ヶ谷刑務所)小菅刑務所ニ移シテ市ヶ谷刑務所ニ移サレ「收監サレ秋山豫審判事殿ノ手ヲ經テ東京地方裁判所官裁判長殿(平田、戸澤檢事殿御立會)御係リニテ公判ニ付サレ一昨年十月懲役十年未決拘留留二百五十日通算ノ御判決ヲ受ケタルモ一昨年六月共同被告佐野學、鍋島貞親等ノ所謂「轉向」聲明ヲ率先支持シ爾來過去ノ誤謬ヲ確認シテ清算シテ努力メタルコトヲ控訴院ニ於テ認メラレタルカ故ニ御座候サレト此ノ御判決ハ組織的犯罪等ニ本事件ノ性質ニ鑑ミ共同被告中ノ或者等ニ比シテ刑ノ量定カ頗ル不均衡ニシテ不當ト信シ上告シタルモノニ有之候例ヘハ共同被



告発地克己ハ私ヨリモ先キニ日本共産黨ニ入黨仕リ極メテ重要ナ地位ニ東京地方...

テ他國民カ日本民族ノ生活ヲ理解スルコトハ不可能ナルコトヲ今日把握シテ...

本上告趣意書ノ眼目ニ御座候ト云ヒ辯護人眞鍋芳太郎上告趣意書第一點被告...

相違ナキカ(註)西村モ同志佐野學外四名ノ發表セル所謂轉向聲明書ニ對シテ之...

テ他國民カ日本民族ノ生活ヲ理解スルコトハ不可能ナルコトヲ今日把握シテ...

ニ於テ刑政ノ第一ニシテ而カモ同時ニ最終時ノ目的ハ實ニ彼等ノ改過感化運籌...

ナル法ノ制裁ヲ受クルノ覺悟ヲ爲セルモノナルカ記録ノ示ス所ニヨレハ西村又其...

四十四條ニ從テ審理ヲ遂ケタルコト上告ノ理由アルコト右決定ニ説示スル如ク...



刑事判例

國民的自覺ニ依テ轉向セル共產黨員ノ量刑

丹後吉郎兵衛等ト展會合協議ノ末同黨ノ評議會再建方針ニ從ヒテ諸般ノ活動ヲ爲シ同年七月上旬全國協議會準備會ヲ組織シ同年九月上旬之ヲ日本労働組合全國協議會準備會ト又全國單一労働組合總聯合會促進東地方協議會準備會ヲ日本労働組合關東地方協議會準備會ト夫々改稱シ次テ同年十二月二十五日日本労働組合協議會ヲ確立セシメ

五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ前罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定期間中懲役刑ヲ選擇シタル上其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年ニ處スヘク尙被告人ハ一且前掲日本共產主義ニ共鳴シ活躍スルトコトアリタリト雖其ノ後漸ク自己カ日本及日本民族ニ對スル省察ヲ急シ附シコトアリタリト對スル旨の信ヲ爲シ居タルコトハ誤認ニ付自覺セルコトアリ

大審院裁判例索引(八)

民事の部

Table with columns: 題名 (Title), 事件番号 (Case No.), 年月日 (Date), 頁数 (Pages), 裁判要旨 (Summary). Rows include cases like '抵當権抹消請求事件', '強制執行異議', '特許無効請求', etc.















● 刑 事 之 部

標 題	事 件 名	事件番號	年 月 日	頁 數	認 定 重 大 事 實 誤 放 火 未 遂
窃盜ノ執行猶豫ノ事情	窃盜事件	昭和八年 (レ)一三五四	昭和九年 一・二五	一	演職ノ認定ト事實理由不備
金額十五錢ノ天井ヲ賭シタ ル麻雀勝負ト賭博罪	賭博	(レ)一六九五	同	二	普通水利組合ト管理者
有罪判決ニ於ケル擬律	同	同	同	二	年少中學生ノ窃盜ト犯情
詐欺ノ認定ト理由不備	詐欺	同	同	二	選舉運動依頼ノ爲ノ個々面
確定判決ト犯意ノ中斷	水利妨害	(レ)一六六六	同	三	老齡ナル市議候補者ノ選舉
連續一罪中ノ一部ノ無罪判	村會議員選舉罰則違反	(レ)一八一五	同	三	違反ト其量刑
決ト有罪部分ニ對スル上訴	放火	(レ)一五〇四	同	三	金策ヲ依頼シタル者ノ贖物
滿十五才ノ少女ノ放火ト重	放火	(レ)一〇八七	同	三	故買ヲ保行爲ト其ノ罪數
大事實ノ誤認	放火	(レ)一三六四	同	三	未完成公務所ノ記號用紙使
證據ニ依ラサル選舉運動報	縣會議員選舉罰則違反	(レ)一三六四	同	三	用ト記號不正使用罪
陪審ト證據ノ信否及罪實ノ	放火	(レ)九二	同	三	老婆ノ嫉妬ニ因ル放火ト犯
有無ニ關スル裁判長ノ意見	放火	(レ)一三六四	同	三	被告人ノ辯解ノ眞實性
表示	放火	(レ)九二	同	三	無免許ノ按摩ト犯罪ノ無證
村會議員選舉違反ト重大事	村會議員選舉罰則違反	(レ)九二	同	三	明
實ノ誤認	橫領	(レ)一七九八	同	二	詐欺罪ト犯罪ノ無證明
無證明	橫領	(レ)一七九八	同	二	證據ニ基カサル收賄金額ノ
豫審請求書ヲ讀ミ聞ケサル	治安維持法違反	(レ)一九	同	二	認定
採證法ノ違背	業務上橫領	(レ)一三〇	同	二	公立學校長ノ職務權限
無證明	業務上橫領	(レ)一三〇	同	二	暴行罪ト告訴取下
齒科醫師ノ身分ヲ有スル青	墮胎	(レ)一三五	同	二	自動自轉車運轉手ノ注意義務
年學生ノ墮胎罪ト其ノ量	墮胎	(レ)一三五	同	二	放火犯ト擬律錯誤
刑	墮胎	(レ)一三五	同	二	地方官商ノ放火ト事實ノ誤
不當ナル辯護權ノ制限ト採	公私文書偽造行使詐欺未遂	(レ)一五六四	同	三	認
證法違背	業務上橫領	(レ)一三八一	同	三	傷害致死ト正當防衛
官公吏ノ作ル書類ト契印ノ	業務上橫領	(レ)一三八一	同	三	傷害致死ト正當防衛
必要	業務上橫領	(レ)一三八一	同	三	傷害致死ト正當防衛
公判手續ヲ更新セサル違法	詐欺私文書偽造行使	(レ)一四	同	三	傷害致死ト正當防衛
採證法違背ノ判決	同	(レ)一四	同	三	傷害致死ト正當防衛
決定ヲ爲ササル違法	傷害致死	(レ)二六八	同	三	傷害致死ト正當防衛
決定書中ノ圖面ト證據調ノ	業務上橫領郵便法違反	(レ)一五六〇	同	三	傷害致死ト正當防衛
方法	業務上橫領郵便法違反	(レ)一五六〇	同	三	傷害致死ト正當防衛

市會議員選舉ニ於ケル備少 金額ノ供與及養應ト其ノ量	市會議員選舉罰則違反事件	事件番號	年 月 日	頁 數
備少ナル金額ノ選舉違反ト	市會議員選舉罰則違反	(レ)一一三〇	同	七六
量刑	市會議員選舉罰則違反	(レ)一一三二	同	七七
不良中學生ノ放火ト事實ノ	放火	(レ)一〇九八	同	七八
誤認	放火	(レ)一〇九八	同	七八
自動自轉車運轉手ノ注意義務	業務上過失致死	(レ)九六八	同	八二
國民的自覺ニ依ツテ轉向セ	治安維持法違反	(レ)一一二二	同	八五
ル共產黨員ノ量刑	治安維持法違反	(レ)一一二二	同	八五
被害者ノ執拗ナル暴行ニ對	傷害	(レ)五九七	同	八四
スル傷害ト正當防衛	傷害	(レ)五九七	同	八四

以上







昭和十年年度版 最新刊

本卷は

# 第二十五卷

(九月六日發賣)

▲昨年度の判例を最も迅速に系統的に知り得るものは本書以外にない。  
昭和九年度の大審院始め全國各裁判所の判例を網羅し、之を學理的に配列し、適切なる索引を附した最新の判例集である。  
▲幾多の、法律的に、社會的に重要な判例が山積してゐる。  
一例をあげれば、夫婦道徳を高唱して有名な「聖典講義」判決、親子關係の「母性のチェンマ」、父子關係の新傾向の判決、  
刑事では歴史的大判決として、佐野鍋山の最終判決、赤城山金發掃事件、血盟團の判決、淨化市會疑獄の一審判決、赤化  
判事、新バラ／＼事件、博士號買賣判決等々、  
其他注目すべき幾多の貴重な判決を包容してゐる。

法律新聞社編纂

# 判決要録

四六版總革製爪掛附  
紙數一千八百頁  
定價 金 六圓

送料 内地(普通) 二二錢  
臺灣・樺太・四七錢(書留) 六二錢  
朝鮮・滿洲・南洋(書留) 六二錢

發行發賣所

東京市日本橋區本町四丁目五番地五  
電話日本橋(24)五九三二番  
振替東京五二二五五番

法律新聞社

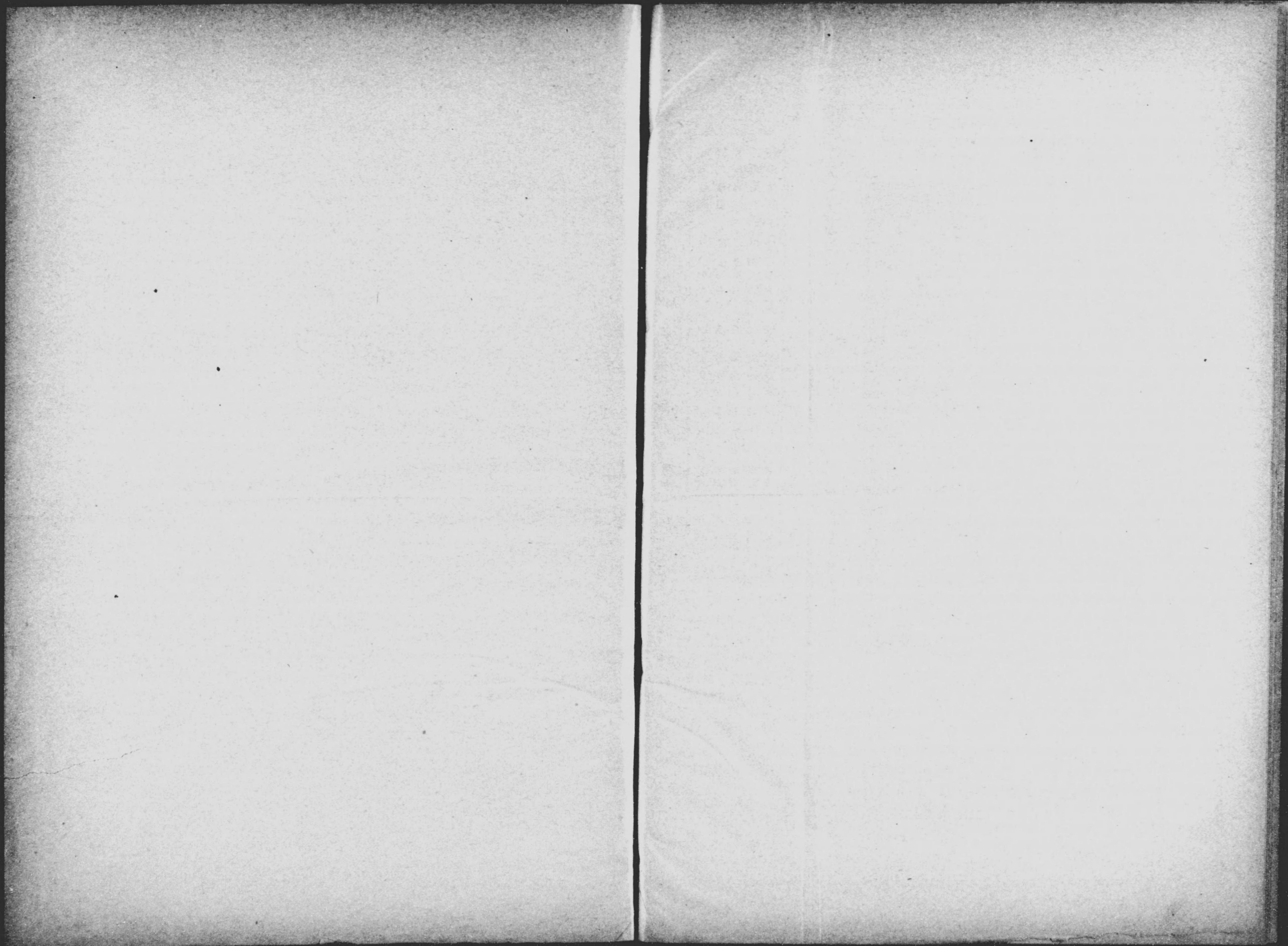
判決要録(十五卷)	定價金 六圓
判決要録(十六卷)	定價金 六圓
判決要録(十七卷)	定價金 六圓
判決要録(十八卷)	定價金 六圓
判決要録(十九卷)	定價金 六圓

判決要録(二十卷)	定價金 六圓
判決要録(廿一卷)	定價金 六圓
判決要録(廿二卷)	定價金 六圓
判決要録(廿三卷)	定價金 六圓
判決要録(廿四卷)	定價金 六圓

大賣所

大阪	法政書房
東京	酒井書店
東京	巖松堂
東京	東海堂
東京	東隆館
東京	北隆館











147  
550



